

展覧会事業

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の2万8千点以上の写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画した。珠玉の名作を順次紹介すると共に、展覧会をパッケージ化し、館発の他館への巡回展を行った。

① 写真コレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、「こどもの情景」をテーマに約半年にわたって三部構成で連続展覧会を開催した。図録の代わりとして講談社一般書籍として『こどもの情景』を出版した。また、2004年に開催した「明日を夢みて アメリカ社会を動かしたソーシャル・ドキュメンタリー」展に引き続き、「ストリート・ライフ ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち」展によって、ドキュメンタリー写真の歴史と意味を考察した。図録の代わりとして美術出版社から同名タイトルの一般書籍を出版した。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

真珠湾攻撃から70年目にあたり、戦争によって翻弄されてきた内外の人々や遺産を撮影し続けた江成常夫の「江成常夫写真展-昭和史のかたち-」を開催し、相模原市民ギャラリー（2012年1月27日～2月13日）と酒田市美術館（3月18日～4月22日）に巡回した。

新興写真の旗手として、日本の近代写真の成立に欠かすことのできない写真家である堀野正雄の全貌を探る展覧会「幻のモダニスト、写真家堀野正雄の世界」展を開催した。図録の代わりとして国書刊行会から同名タイトルの一般書籍を出版した。

「夜明け前 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編」展は、「知られざる日本写真開拓史 長崎・寫眞傳來」展として

長崎歴史文化博物館で2011年6月11日から7月8日まで巡回した。

③ 映像展の展開

写真美術館の映像コレクションの5つの指針であるテーマを毎年取り上げるシリーズとして「映像をめぐる冒険」展を2008年にスタートさせ、第4回として「拡大と縮小」をテーマに「見えない世界のみつめ方」展を開催し、映像の歴史と最新技術を生かした現代の表現を収蔵作品を中心に新たな視点から紹介した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を、国際動向もふまえて実施した。また、国内外の美術館等と共同企画し、他館への巡回展を実施した。

① 中堅作家の個展

新重点収集作家である畠山直哉の、新作も交えながら彼の軌跡を迎える展覧会「畠山直哉 Natural Stories」展を開催した。なお、この展覧会は、館発の企画展として、オランダのアムステルダム、Huis Marseille, Museum for Photographyに2011年12月16日から2012年2月26日まで巡回し、その後、2012年7月にサンフランシスコ近代美術館で開催される予定である。なおこの展覧会によって、畠山直哉氏に第62回芸術選奨文部科学大臣賞が贈られた。

② 国際展

世界的なフォト・ジャーナリストであるジョセフ・クーデルカの出世作「ジョセフ・クーデルカ プラハ 1968」展をアパーチャーやマグナムとの協力で開催した。

19世紀写真史にその名が残るフェリーチェ・ベアトの作品を、J・ポール・ゲティ美術館のコレクションを中心に概観する「J・ポール・ゲティ美術館コレクション フェリーチェ・ベアトの東洋」展を開催した。

③ 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるシリーズ第10回として、「写真の飛躍」をテーマに「日本の新進作家」展を開催した。

④ 恵比寿映像祭

「東京文化発信プロジェクト」の基幹事業である恵比寿映像祭は、第4回目として「映像のフィジカル」を総合テーマに、国内外の120名のアーティストの作品を集め、多くの観客を魅了した。

平成22年に当館で「なにものかへのレクイエム」展を開催した森村泰昌氏に紫綬褒章が贈られた。

◇誘致展

写真月間との共催や、写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

展覧会事業
収蔵展

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史
四国・九州・沖縄編

Dawn of Japanese Photography [Shikoku, Kyusyu, Okinawa prefecture]

期 間 平成23年3月8日（火）～5月8日（日）
34日間（平成23年4月1日以降の開館日数）
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／
美術館連絡協議会
協 賛 ライオン／清水建設／大日本印刷
協 力 日本大学芸術学部／長崎大学附属図書館／長崎歴史
文化博物館
出品作品数 340点（会期中展示替えあり）

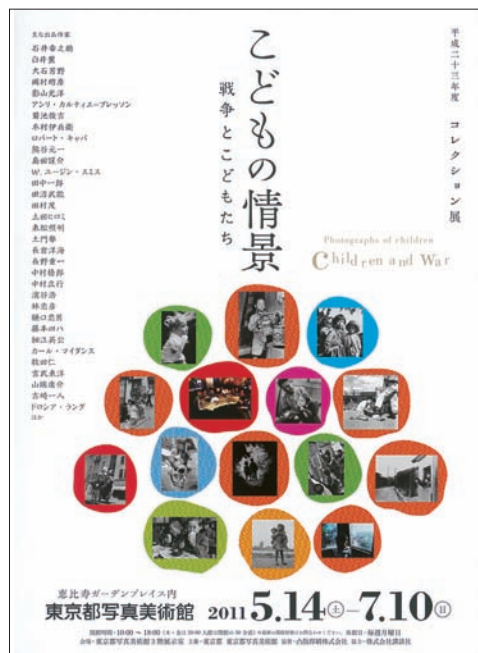
日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治中期の写真・資料を調査して、体系化する初めてのシリーズ的試み「日本写真開拓史」の第三弾。当館収蔵作品および協力機関である日本大学芸術学部の収蔵作品のほか、約2,200の施設へ収蔵調査を行い、所蔵が明らかになった四国・九州・沖縄地方の多くの未公開作品から構成されている。プロジェクター投影の活用や写真台紙の裏側に印刷された写真館の情報や意匠を見ることのできる立体展示によって、多角的に初期写真の魅力に迫る。



コレクション展
「こどもの情景－戦争と子どもたち」
Photographs of Children – Children and War

期 間 平成23年5月14日（土）～7月10日（日）
50日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 株式会社講談社
出品作品数 160点

写真史上の有名作品からあまり目に触れる機会のない作品まで、時代を超えた魅力を放つ写真作品を「戦争と子どもたち」というキーワードで当館のコレクションから選びぬいて紹介した。展示では、1930年代から1970年代までに撮影された写真作品を年代別による時系列で紹介し、各年代の頭には、その間に起った戦争・クーデター・革命などを示した年表を掲げた。戦争は世界のどこかで絶え間なく起こっている、という事実を踏まえながら、戦場と非戦場での子どもたちのすがたを通して、写真成立の必須事項である「時間」と「場所」を考える機会とした。



コレクション展
「こどもの情景—こどもを撮る技術」
 Photographs of Children – the art of photographing children

期 間 平成23年7月16日(土)～9月19日(月・祝)
 57日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 株式会社講談社
出品作品数 114点

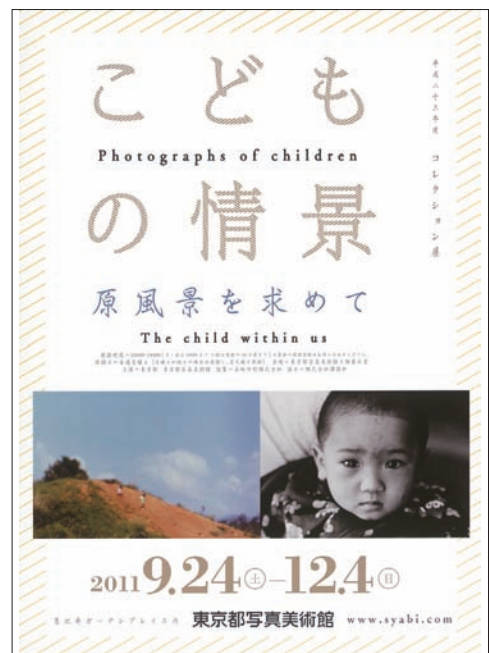
第2期目となる本展は、写真の誕生と発展の歴史をたどり、どの時代も、こどもが魅力的な被写体として、写真家とクライアントを魅了し続けたことに注目した。収蔵作品の中から、黎明期から現代の作品まで、時代的・技法的にも幅広い作品を出品した。「知る」「観る」「撮る」の三部構成とし、一部で写真史を学び、二部でこどもをキーとして作家別に作品を展示、三部で写真を撮影する簡易スタジオを特設し、肖像写真によって「光」の楽しさを体験できる場を提案。多角的に写真を楽しめる空間を構成した。



コレクション展
「こどもの情景—原風景を求めて」
 Photographs of Children – the child within us

期 間 平成23年9月24日(土)～12月4日(日)
 62日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
協 力 株式会社講談社
出品作品数 144点

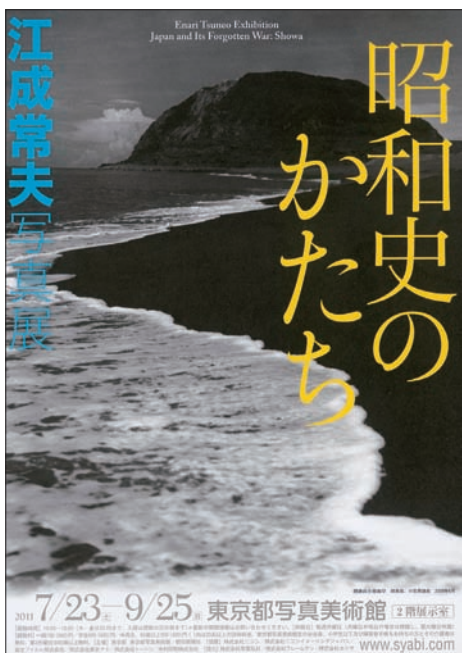
本展では、当館の豊富なコレクションのなかから、こどもが登場する写真、こどもの世界を反映した写真を選び、その共通性や関連性に着目して、18の「情景」に分類する展示を行った。「こどもの集まる場所」「出会いの一瞬」「走る とぶ ころがる」「紙芝居を見つめる」「笑顔」「仮面」など、時代も撮影場所もさまざまな「こどもの情景」を比較することで、撮影者の視点の違いを明らかにしたり、共通した感性を見いだしたりする展示構成は、鑑賞者に親しみやすく好評を得た。土門拳、木村伊兵衛、植田正治、長野重一ら昭和の巨匠による作品を中心としながら、オノデラユキ、やなぎみわ、川内倫子らの現代作家をバランスよく展示に加え、「こども」というテーマを通して、当館収蔵作品の新たな見方を提示した。



江成常夫写真展 ～昭和史のかたち～ Enari Tsuneo Exhibition Japan and Its Forgotten War: Showa

期 間 平成23年7月23日（土）～9月25日（日）
56日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社
協 賛 株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フイルム株式会社／株式会社東京アド／株式会社トーシン／光村印刷株式会社
協 力 株式会社写真弘社／株式会社フレームマン／株式会社カシマ
出品作品数 112点

40年近くにわたり、昭和の戦争とその負の遺産を写真で表現しつづけてきた江成常夫の集成展。江成は毎日新聞東京本社の写真記者を経て、1974年（昭和49年）よりフリーランスの写真家として活動を開始、その後は一貫して、15年に及んだ「アジア太平洋戦争」のもとで、死と涙を強いられてきた内外の、声を持たない人たちの声を写真で代弁することで、戦後日本人の現代史に対する精神性を問い続けてきた。本展覧会は、代表作である「偽満洲国」「シャオハイの満洲」「鬼哭の島」に、未発表最新作を含む「ヒロシマ」「ナガサキ」を加えた112点で構成し、現代日本を生きる私たちの歴史を改めて顧みた。



ストリート・ライフ ～ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち～ Street Life:Chronicles of Europe by Seven Photographers

期 間 平成23年12月10日（土）～平成24年1月29日（日）
40日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
出品作品数 183点

2004年に当館で開催した「明日を夢見て アメリカ社会を動かしたソーシャル・ドキュメンタリー」展の続編として、イギリス、フランス、ドイツで活躍した7人の写真家を取り上げた。19世紀後半から20世紀前半のヨーロッパにおいて、ソーシャル・ドキュメンタリー写真が存在したのかを考察。7人の写真作品を通して、近代化によって急速な変化を遂げてゆくヨーロッパの都市の街角や生活風景を記録した写真群に、失われようとする歴史を、現在のものとしてとらえようとした想像力豊かな視点を検証した。
[出品作家]ジョン・トムソン、トーマス・アナン、ビル・ブランド、ブラッサイ、ウジェーヌ・アジェ、ハインリッヒ・ツィレ、アウグスト・ザンダー



映像をめぐる冒険 vol.4 Quest for Vision vol.4

見えない世界のみつめ方 BEYOND THE NAKED EYE

期 間 平成23年12月13日(火)～平成24年1月29日(日)
38日間

主 催 東京都 東京都写真美術館／産経新聞社

支 援 文化庁メディア芸術祭人材育成支援事業

協 賛 凸版印刷株式会社

協 力 NECディスプレイソリューションズ株式会社／
日本科学未来館／株式会社ライゾマティクス／
株式会社学研教育出版

後 援 サンケイスポーツ／タ刊フジ／フジサンケイビジネ
スアイ/iza!／SANKEI EXPRESS

出品作品数 48点

映像をめぐる冒険シリーズの第4弾として開催。「拡大と縮小」をテーマに、世界像の拡大をたどる展覧会となった。東京都写真美術館所蔵の科学写真に加え、ガリレオ・ガリレイの『天文対話』など天文学に関する貴重書を展示した。同時に、鳴川肇が考案した新しい世界地図の投影法『オーサグラフ』やdoubleNegatives Architectureの『Super Eye』と『Corpora』、小阪淳の『MIT2.0』を展示することで、過去から現在までの世界の見方を紹介する企画展となった。



幻のモダニスト ～写真家堀野正雄の世界

期 間 平成24年3月6日(火)～5月6日(日)
23日間(平成24年3月31日までの開館日数)

主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／
美術館連絡協議会

協 賛 ライオン株式会社／清水建設株式会社／
大日本印刷株式会社／株式会社損害保険ジャパン

出品作品数 207点

堀野正雄(1907-1998)は、日本における近代写真の成立と展開に重要な役割を果たした写真家である。その活動について、一部の関係者に知られ、評価されることはあっても、その全体像については検証されてはこなかった。本展は、遺族のもとに残されたプリントを中心に、当時の雑誌などの資料を併せて207点展示した。写真家堀野正雄の幅広く多彩であったにも関わらず失われた活動の軌跡を検証することによって、1930年代に日本の写真史に新たなヴィジョンの構築をめざした。



展覧会事業
自主企画展

芸術写真の精華
日本のピクトリアリズム 珠玉の名品展
Masterpieces of Japanese Pictorial Photography

期 間 平成23年3月8日（火）～5月8日（日）
34日間（平成23年4月1日以降の開館日数）
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都写真美術館
助 成 財団法人朝日新聞文化財団
協 賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社／
東京都写真美術館支援会員
出品作品数 出品作品数 120点

19世紀中頃から絵画を模倣することによって写真の芸術性を確立しようとする動きが顕著になり、世紀末には世界を席卷した「ピクトリアリズム（絵画主義）」。

日本でも明治時代中期にアマチュア写真家たちが、西欧の動向を取り込みながら「芸術」としての写真のあり方を模索しはじめるが、その模索は、日本の伝統的な絵画と受容したばかりの西洋絵画の両方を規範とする日本独自のピクトリアリズムの写真表現をかたちづくってゆくこととなった。

本展では、明治時代後半から1930年代までに制作された、日本が世界に誇る珠玉の名品120点と貴重な資料を一堂に集め、日本独自のピクトリアリズムの表現の精華を紹介する機会とした。



ジョセフ・クーデルカ プラハ1968

—この写真を一度として見ることもなかった両親に捧げる—
Invasion 68: Prague Josef Koudelka

期 間 平成23年5月14日（土）～7月18日（月・祝）
57日間
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
朝日新聞社
後 援 チェコセンター／チェコ共和国大使館
協 力 平凡社／マグナム・フォト東京支社／
エールフランス航空／ウェスティンホテル東京
協 賛 東京都写真美術館支援会員
出品作品数 出品作品数 173点

フォト・ジャーナリズム史に伝説として名を刻み、現在もパリとプラハを拠点に世界的な活動を続けるジョセフ・クーデルカ（1938年～）の展覧会。クーデルカは、1968年8月に起こったワルシャワ条約機構軍のプラハ侵攻「チェコ事件」時、団結して兵士に抵抗した市民の攻防を写真におさめた。しかし、「プラハの春」と呼ばれる変革運動が終焉を迎え、ソ連が導く共産主義へと「正常化政策」が敷かれる中では、これらの写真は国家から許される記録ではなかった。そのため、これらの写真は秘密裏にアメリカへ持ち出され、当時のマグナム会長エリオット・アーウィットを経て、翌1969年「プラハの写真家」という匿名者によるドキュメントとして発表。写真家の名を伏せたまま、ロバート・キャパ賞を受賞し注目を集めた。クーデルカがこの写真の作者であると名乗りを上げることができたのは1984年、彼の父親がチェコで亡くなった後のことだ。本展覧会では、突然、街を埋め尽くした戦車に人力で立ち向かったプラハ市民の勇気ある記録をクーデルカの臨場感溢れる写真から振り返り、当時の市民に起きたことをいかに自身の身に引き寄せ、私たちの未来の歴史の糧とするかを検証した。



畠山直哉展 Natural Stories ナチュラル・ストーリーズ

期 間 平成23年10月1日(土)～12月4日(日)
56日間
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都写真美術館
助 成 芸術文化振興基金
協 賛 ニコン/ニコンイメージングジャパン/
東京都写真美術館支援会員
協 力 DNPアートコミュニケーションズ/タカ・イシイギ
ャラリー
後 援 サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネ
スアイ/iza!/SANKEI EXPRESS
出品作品数 136点

日本を代表する中堅写真家の一人でもある畠山直哉の個展。鉱山の現場や発破の瞬間を描写した「Blast」のシリーズや都会の建築群や地下水路など、多様な光景を撮影し、海外にも日本を代表する写真家の一人として認知されている。今回の展覧会は、近年の活動を中心としながら、作家の故郷であり、東日本大震災で被災した陸前高田市の風景を含む「自然と人間」をテーマとした展示となった。なおこの展覧会は海外に巡回した。

海外巡回先

ハウス・マルセイユ写真美術館(オランダ・アムステルダム)

2011年12月16日～2012年2月26日

サンフランシスコ近代美術館(アメリカ・サンフランシスコ)

2012年7月28日～2012年11月14日



日本の新進作家展vol.10「写真の飛躍」

elan photographic

— Contemporary Japanese Photography vol.10

期 間 平成23年12月10日(土)～平成24年1月29日(日)
40日間
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術
館/東京新聞
協 賛 株式会社資生堂/凸版印刷株式会社/
東京都写真美術館支援会員
協 力 有限会社フォトグラフアーツ・ラボラトリー/
株式会社カシマ/株式会社office if
出品作品数 70点

第10回を迎える今年の新進作家展は、写真の原点となる手法を生かしなが
ら、現代のさまざまな事象と向き合う作家5名を最新作と共に紹介し
た。

いずれの作家もフォトグラム、ピンホールカメラ、コラージュ、多重露
光、露出といった、写真の根源的な手法や特性に着目しながら多彩な作
品を制作している。私たちが想像するより複雑で数多の想定外のことが
起きる現実と向き合うためにも、これらの作品との出会いは、写真を見
るという行為や視覚によって生成される記憶、認識といったものを検証
する契機となる。

作品の表現を受け身になることなく自発的に見て思考の種をみつけるこ
とが、写真の新たな飛躍につながることを考察した展覧会。

出品作家は北野謙、佐野陽一、添野和幸、西野壮平、春木麻衣子。



J・ポール・ゲティ美術館コレクション展 フェリーチェ・ベアトの東洋

Collection from THE J. PAUL GETTY MUSEUM AT THE GETTY
CENTER *Felice Beato: A Photographer on the Eastern Road*

- 期 間** 平成24年3月6日（火）～5月6日（日）
23日間（平成24年3月31日までの開館日数）
- 主 催** 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館/東京新聞
- 協 賛** 凸版印刷株式会社/アサヒビール芸術文化財団/
東京都写真美術館支援会員
- 協 力** 日本航空
- 特別助成** アメリカ合衆国大使館
- 出品作品数** 出品作品数 145点

フェリーチェ・ベアト（1832－1909）は幕末に日本を訪れ、20年以上の長きにわたって横浜に滞在した写真師。フェリーチェ・ベアトの仕事は、没後100年を経た今でも19世紀のアジアを詳らかにするタイムカプセルそのものといえよう。本展は昨年、アン・ラコステ氏によって企画され、ロサンゼルスJ・ポール・ゲティ美術館で開催された展覧会の国際巡回である。本展はフェリーチェ・ベアトの生涯にわたる仕事全体を広く見渡す日本初のレトロスペクティブである。



第4回 恵比寿映像祭「映像のフィジカル」

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2012: How Physical

期 間 平成24年2月10日(金)～2月26日(日) [15日間]
主 催 東京都／東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)／日本経済新聞社
共 催 サッポロ不動産開発株式会社
後 援 アメリカ大使館／カナダ大使館／タイ王国大使館／駐日韓国大使館 韓国文化院／J-WAVE 81.3FM
協 賛 オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム／オランダ王国大使館／台北駐日経済文化代表処 台北文化センター／モンドリアン財団／韓国国際交流財団／サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員
協 力 山口情報芸術センター [YCAM]／NECディスプレイソリューションズ株式会社／東芝ライテック株式会社／東芝エルティーエンジニアリング株式会社／レッドブル・ジャパン株式会社／KyotoDU／びあ株式会社／エキサイトイズム／株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット
出品作品数 展示作品：30点／上映作品：94点／オフサイト：1作品／ライブ：7作品(計132作品)

「映像のフィジカル」を総合テーマに、15の国と地域から120名の作家およびゲストの参加を受け、全館を用い、展示、上映、シンポジウム、レクチャー、トークなど多彩なプログラムを実施した。さらに隣接する恵比寿ガーデンプレイス・センター広場における野外展示プロジェクトや、ザ・ガーデンルームを会場としたライブ・イベント、さらに恵比寿近隣地域の各文化発信拠点との連携による共催プログラムも実施した。

【展示】

出品作家：マライケ・ファン・ヴァルメルダム／前沢知子／ユリウス・フォン・ピスマルク／ヨハン・ルーフ／伊藤隆介／カロリン・ツニッス&ブラム・スナイダース Sitd／スッティラット・スバパリンヤ／東京シネマ(岡田桑三、小林米作、吉見泰ほか)／ユエン・グァンミン／ウィリアム・ケントリッジ／ジョン・ヨンドゥ／鈴木了二／サラ・モリス／大木裕之

【オフサイト・プロジェクト】

出品作家：エキソニモ(千房けん輔、赤岩やえ)

【上映】

プログラム：①21世紀のジョナス・メカス 最新作《スリープレス・ナイツ・ストーリーズ 眠れぬ夜の物語》アジアプレミア(プログラマー：ジェド・ラップフォーゲル、リンク：アンソロジー・フィルム・アーカイヴス、ニューヨーク) ②アヴァンギャルド映画・私的旅行記 ピップ・チョードロフ《フリー・ラディカルズ—実験映画の歴史》アジアプレミア(プログラマー：ジェド・ラップフォーゲル、リンク：アンソロジー・フィルム・アーカイヴス、ニューヨーク) ③メディアの変容—アンドリュウ・ロッシ《ページ・ワン：ニューヨーク・タイムズの内側》アジアプレミア ④飛翔する視覚《The Art of FLIGHT》—アクション・スポーツ・ムービーの最前線 ⑤マーク・ルイス特集—映画史の裏話(バックストーリー) ⑥ディープストラクチャー—韓国現代美術特集 ⑦世界に悪酔い! 大木裕之特集 ⑧世界を記録する：映像人類学への旅—川瀬慈×分藤大翼 最新作 ⑨四稜鏡(プリズム)スクリーンの四辺に光満つ—ウォルター・デ・マリア、トニー・コンラッド、アーニー・ゲア、カーク・トーガス(プログラマー：ジム・オルーク) ⑩建築と映像：

物質試行をめぐって ⑪即興オムニバス映画《"BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW" Omnibus 2011-12》(プログラマー：前田真二郎) ⑫仙台短篇映画祭映画制作プロジェクト作品《3.11 明日》(プログラマー：菅原睦子、リンク：仙台短篇映画祭) ⑬青山真治《AA》再検証：音楽をかたりつく映像の可能性 ⑭オーラル・ヒストリーの記録《なみのおと》 ⑮映像体験のフィジカルティースペシャル・ライブ上映feat.ジム・オルーク：ヴィクトル・シェーストレム《靈魂の不滅》

【イベント】

プログラム：ライブ・イベント | シー・ディス・サウンド(出演：和田永/DJピロピロ a.k.a. 大木裕之/シニギワ(松井茂、長嵩寛幸)/エキソニモ/Typingmonkeys(平川紀道、野口久美子)/ドラびでお(一案儀光)) シンポジウムA | 映像アーカイヴの現在 01：フィルム、ビデオ、アートの交差点(ゲスト：レベッカ・クレマン/ジェド・ラップフォーゲル/松本圭二) シンポジウムB | 映像アーカイヴの現在 02：《AA》をめぐって—音楽と映像の交差点(ゲスト：青山真治/長嵩寛幸/松井茂) レクチャーC | 仙台短篇映画祭の歩み(ゲスト：菅原睦子/富永昌敬/鈴木卓爾) レクチャーD | 物質試行：映像と建築について(ゲスト：鈴木了二/七里圭/富永昌敬/中谷仁仁)

【ラウンジトーク】

ゲスト：ユリウス・フォン・ピスマルク/カロリン・ツニッス&ブラム・スナイダース Sitd/ユエン・グァンミン/スッティラット・スバパリンヤ/伊藤隆介/ヨハン・ルーフ/エキソニモ/岡田一男、岡田秀則/イム・ミヌク/津田広志、岡本健/前沢知子/マライケ・ファン・ヴァルメルダム

【地域連携プロジェクト】

参加施設・団体：公益財団法人日仏会館/NADiff a/p/a/r/t/MEM/G/P GALLERY/TRAUMARIS/MAGIC ROOM???/TOKIO OUT of PLACE/MA2Gallery/ギャラリー工房 親/amu/NPO法人アーツニシア ティヴィトウキョウ [AIT/エイト] /gift_lab/waitingroom/LIBRAIRIE6/リムアート

※本事業は東京文化発信プロジェクトの一環として開催した。



展覧会事業
誘致展

ベティナ ランス写真展
女神たちの楽園

Bettina Rheims MADE IN PARADISE

期 間 平成23年3月26日(土)～5月15日(日)
40日間(平成23年4月1日以降の開館日数)

主 催 朝日新聞社

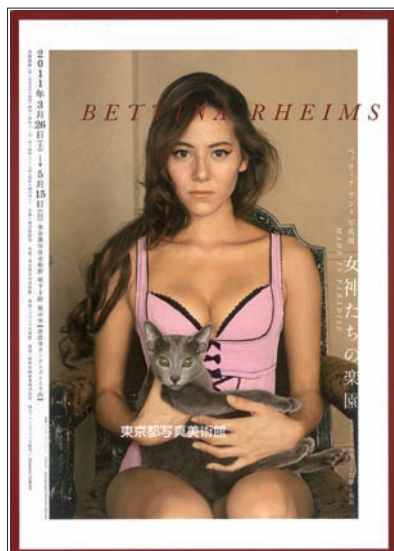
共 催 東京都写真美術館

後 援 フランス大使館

協 賛 野崎印刷紙業株式会社

協 力 エールフランス航空/Numéro TOKYO

モデルやジャーナリストとしての活動を経て、1976年に写真家として独立を果たしたベティナ・ランス。被写体となった多くの女性たちが放つ表現力や存在感は、ランスでなければ引き出せないと言われている。写真界にも男性的な視点がまだ多かった時代から、女性写真家のパイオニアとして活躍するランスの仕事は、ファッション雑誌でのモデル撮影から、エリゼ宮でのシラク元フランス大統領の撮影にまで及び、中でも女性のヌードを撮影した作品群は、被写体から寄せられる厚い信頼のもとに、高い評価を受けている。本展ではヌードを含む女性のポートレイトを主題にこれまでの代表作を展示した。



第36回写真公募展
日本写真家協会展

2011 THE 36th EXHIBITION OF THE JPS

期 間 平成23年5月21日(土)～6月5日(日) 14日間

主 催 公益社団法人日本写真家協会

共 催 東京都写真美術館

後 援 文化庁

1974年に写真文化の振興を目的に、写真愛好家を対象とした始まった写真コンテストの受賞、入選作品展で、今回で36回をむかえる。文部科学大臣賞に桜井百合子「嫁ぐ日」、金賞に西宮明「海景」、銀賞に野呂彰「朝稽古」、嶋田洋「風の日」、銅賞に杉本旭「球連の流転が見える時」、後藤忠彦「屋下がり」、吉津敏彦「夢のおはなし」がそれぞれ受賞した。奨励賞、優秀賞、入選を含め303名514点を展示。併せて会員50名250点、「ヤングアイ」に写真専攻コースのある大学・専門学校など18校が参加展示をした。



世界報道写真展2011
WORLD PRESS PHOTO 2011

期 間 平成23年6月11日(土)～8月7日(日) 50日間

主 催 世界報道写真財団/朝日新聞社

共 催 東京都写真美術館

後 援 オランダ王国大使館/公益社団法人日本写真協会/
公益社団法人日本写真家協会

協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/ティエヌイエクスプレス株式会社

恒例となった世界報道写真展。前年に世界中で撮影された報道写真を対象にした世界報道写真コンテストが毎年、オランダのアムステルダムで開催され、今年は125の国と地域、5691人の写真家が10万8059点の作品をコンテストに応募。応募点数は昨年の10万1960点を上回り過去最高を記録した。コンテストの結果、今年の世界報道写真大賞には、南アフリカの女性写真家ジョディ・ビーバー氏がアフガニスタン人の女性を撮影したポートレイトが選ばれた。夫による暴力から逃れて美家にいたところを反政府武装勢力タリバーンによって強制的に、逃亡の罪で刑を宣告され、夫によって鼻と耳を切り落とされる「罰」を受けた女性のポートレイトを「尊厳に満ちた女性として撮った」(ビーバー氏)ものである。大賞を含め今年は9部門でのべ56人が入賞を果たした。本展覧会は4月のアムステルダムを皮切りに、45の国と地域、約100都市を約1年をかけて巡回する。



鬼海弘雄写真展 東京ポートレイト ~Tokyo Portraits~

期 間 平成23年8月13日(土)~10月2日(日) 44日間
主 催 クレヴィス
共 催 東京都写真美術館
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/富士フイルム株式会社

30年以上にわたって、浅草の人々を撮り続けた肖像や都市を独自の視点で写し出したシリーズにより、近年、国際的にも大きな注目を浴びている鬼海弘雄の初めての大規模な回顧展。1945年山形県に生まれた鬼海は、さまざまな職業を転々とする中、ダイアン・アーバスの作品に大きな衝撃を受け、1969年に写真家として身を立てる決意をし、以来、現在まで写真表現をひたすら追究することに身を投じてきた。本展は、強烈な存在感と詩情をあわせもつ人々を40年以上にわたって撮り続けている『PERSONA』、人の営みの匂いを写し出す町のポートレイト『東京迷路』『東京夢譚』シリーズから精選したモノクロ作品約200点を一堂に展示、写真家・鬼海弘雄の世界を展観した。



第22回日本写真作家協会会員展 第9回日本写真作家協会公募展 The 22nd JPA Exhibition 2011

期 間 平成23年10月8日(土)~10月23日(日) 14日間
主 催 一般社団法人 日本写真作家協会
共 催 東京都写真美術館
後 援 文化庁

日本写真作家協会の会員が出展する作品と、公募展の入賞・入選作品の二つの作品展を展示。本年度は、会員による作品203点に、全国から応募作品1933点の中から入賞・入選した188点を加え、全391点を展示し、大阪・広島にも巡回した。



写真新世紀東京展2011 New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2011

期 間 平成23年10月29日(土)~11月20日(日) 20日間
主 催 キヤノン株式会社
共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展では応募人数1,305人のなかから選ばれた優秀賞受賞者5名、佳作受賞者20名の受賞作品を展示した。また同時に前年度グランプリに選ばれた佐藤華連による新作作品展を開催した。関連イベントとして11月11日(金)には1階ホールにて「公開審査会」(審査員:大森克己、佐内正史、榎木野衣、清水穂、HIROMIX)を開催した。



第12回上野彦馬賞受賞作品展
九州産業大学フォトコンテスト
UENO HIKOMA AWARD Exhibition

期 間 平成23年11月26日(土)～12月4日(日) 8日間
主催 九州産業大学/毎日新聞社
後援 文化庁 日本写真芸術学会
東京都写真美術館 福岡県
福岡県教育委員会 RKB毎日放送
スポーツニッポン新聞社
協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/サイバグラフィック株式会社/株式会社ニコン/富士フィルム株式会社/富士フィルムイメージテック株式会社/エプソン販売株式会社

21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とし、わが国の“写真の祖”として尊敬されている「上野彦馬」の名を冠した「上野彦馬賞-九州産業大学フォトコンテスト」。9月17日まで募集された作品から、入賞した作品<一般の部>28点、<高校生・中学生部門>75点を紹介した。また萩市博物館古写真コレクションの古写真50点(複写50点うち20点が実作品)を展示した。



APAアワード2012
第40回社団法人日本広告写真家協会公募展
APA Award 2012

期 間 平成24年3月3日(土)～3月18日(日) 14日間
主催 社団法人日本広告写真家協会/第三回「全国学校図工・美術写真公募展」実行委員会
共催 東京都写真美術館/全国造形教育連盟
後援 経済産業省/文化庁/文部科学省/東京都教育委員会/財団法人 美育文化協会/財団法人 教育美術振興会
協賛 エプソン販売(株)/オリンパス(株)/オリンパスイメージング(株)/加賀ハイテック(株)/キタムラ/キヤノン(株)/キヤノンマーケティングジャパン(株)/(株)玄光社/ソニー(株)/(株)電通/(株)ニコン/(株)ニコンイメージングジャパン/(株)ピクトリコ/富士フィルム(株)/(株)フレームマン/ペンタックスリコーイメージング(株)/前田建設工業(株)/(株)堀内カラー/ライカカメラジャパン(株)/(株)リコー
協力 法人賛助会員各社

社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2012」の入賞・入選作品を一堂に展示した。

広告作品部門は平成22年1月1日から平成23年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品を、写真部門では“『心』-こころ-”というテーマで一般公募された写真の中から新たな表現へ挑戦した189作品を選出し展示した。

併設展として「第三回全国学校図工・美術写真公募展」で、全国の小・中学生から応募された写真を展示。

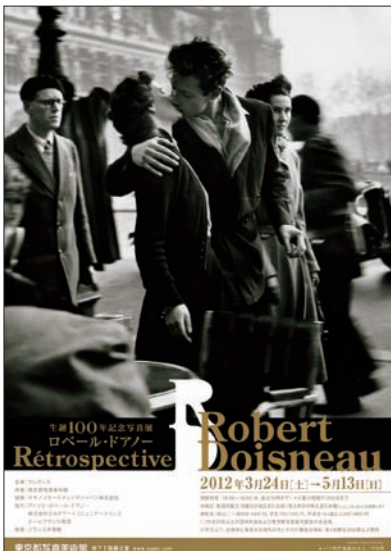


生誕100年記念 写真展 ロベール・ドアノー RETROSPECTIVE

期 間 平成24年3月24日（土）～5月
13日（日）7日間（平成24年3
月31日までの開館日数）
主 催 クレヴィス
共 催 東京都写真美術館
協 力 アトリエ・ロベール・ドアノー/
株式会社DNPアートコミュニケ
ーションズ/エールフランス航空
後 援 フランス大使館

ロベール・ドアノーの生誕100年にあたる2012年を機に、彼の残したネガ・作品を管理保管する目的でドアノーの遺族によって創設されたアトリエ・ロベール・ドアノーの全面協力のもと、その業績を一望にする大規模な回顧展として開催した。

ドアノーが残した約40万点にも及ぶネガから精選した190点で展覧し、ドアノーの代名詞とも言えるパリを舞台にした代表作や、1920年代の初期作品、第二次大戦中、自らも参加していたレジスタンスの活動の記録、文化人たちのポートレートなどを展示し、写真家・ロベール・ドアノー創造の秘密に迫った。





教育普及事業 スクールプログラム

学校児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校・中学校・高等学校、大学および各種学校の授業とリンクした「スクールプログラム」を実施している。利用を希望する学校を対象に、展覧会の作品解説、暗室での写真プリントや教材キットを活用した実技的な体験プログラムを行った。大学の博物館学等で来館した学校団

体には、当館の展覧会業務や美術館活動についての概要説明、バックヤード見学等を実施した。

実施回数： 49回（教員研修等をふくむ）

参加者数： 1,252人

平成23年度 スクールプログラム実績

	年月日		時間	団体名	学年	授業区分	人数	プログラム
1	4月29日	金祝	10:30-13:00 14:00-16:30	東京写真学園	専門学校生	授業等	135	展覧会鑑賞「夜明けまえ」展
2	5月18日	水	13:00-14:00	知多市立東部中学校	3年生	修学旅行	4	体験プログラム(驚き盤)
3	5月31日	火	13:30-14:30	日本大学芸術学部	大学生	授業等	38	概要説明
4	6月 3日	金	13:30-14:30	日本大学芸術学部	大学生	授業等	30	概要説明
5	6月11日	土	16:00-17:00	都立総合芸術高校	高校生	授業等	19	展覧会鑑賞「世界報道写真」展
6	6月11日	土	14:00-15:00	東京芸術大学	大学生	授業等	20	展覧会鑑賞「クーデルカ」展
7	6月17日	金	14:00-15:00	東京造形大学	大学院生	授業等	12	展覧会鑑賞「クーデルカ」展
8	6月24日	金	13:00-14:00	星槎教育研究所	小学4年生 -6年生	総合学習	8	体験プログラム(驚き盤)
9	7月 1日	金	10:00-12:00	都立青峰学園高等部	1年生	授業等	8	体験プログラム(驚き盤)
10	7月14日	木	10:00-14:00	港区立御田小学校	4年生	図工	72	体験プログラム(フォトグラム)
11	7月26日	火	10:00-11:30	東村山市立萩山小学校	小学生と 保護者	授業等	27	体験プログラム(フォトグラム)
12	7月26日	火	13:00-18:00	学校連携フォーラム(学校教員研修)	教員	教員研修	31	体験プログラム(驚き盤、フォトグラム)
13	7月28日	木	13:00-15:00	狛江市立第2中学校	中学生	美術部	13	体験プログラム(カメラの仕組みを学ぼう)
14	7月29日	金	10:00-13:00	武蔵野市立第5中学校	中学生	美術部	7	体験プログラム(驚き盤、フォトグラム)
15	7月29日	金	14:00-15:00	荒川区立諏訪台中学校	中学生	美術部	20	体験プログラム(驚き盤)
16	8月 2日	火	14:00-14:30	江東区立大島西中学校	中学生	美術部	18	展覧会鑑賞「江成常夫」展、「世界報道写真」展
17	8月23日	火	13:00-15:00	品川区図工美術教員研修	小学校教員	教員研修	18	体験プログラム(コマ撮り、アニメーション、フォトグラム)
18	8月25日	木	10:00-15:30	京都造形芸術大学	大学生	見学旅行	20	体験プログラム(BWプリント)
19	9月 6日	火	11:30-12:30	朝日ジャーナリスト学校	専門学校生	授業等	30	展覧会鑑賞「江成常夫」展
20	9月 9日	金	10:30-11:30	東京総合写真専門学校	専門学校生	授業等	30	展覧会鑑賞「こどもの情景」展
21	9月27日	火	10:00-12:00	大田区立大森第3中学校	2年生	職場訪問	12	体験プログラム(フォトグラム)
22	9月30日	金	10:00-12:00	渋谷区立神宮前小学校	5年生	図工	11	体験プログラム(フォトグラム)
23	10月22日	土	10:00-12:00	京都造形芸術大学 通信教育部	大学生	授業等	11	概要説明、バックヤード見学
24	10月22日	土	10:00-11:30	京都造形芸術大学 通信教育部	大学生	授業等	18	展覧会鑑賞「畠山直哉」展
25	11月 4日	金	10:00-13:00	都立大塚聾学校	小学1年 -6年生	授業等	20	体験プログラム(驚き盤、フォトグラム)
26	11月 5日	土	10:00-12:00	筑波大付属駒場中学校	3年生	授業等	4	体験プログラム(フォトグラム)
27	11月18日	金	15:00-17:00	日本大学通信教育部	大学生	授業等	15	概要説明、バックヤード見学
28	11月25日	金	10:00-14:00	港区立港陽小学校	5年生	図工	41	体験プログラム(フォトグラム)
29	11月29日	火	13:00-15:00	首都大学東京	大学生	博物館実習	9	概要説明
30	12月 2日	金	10:00-12:00	杉並区立東田中学校	中学生	通級指導学級	20	体験プログラム(コマ撮りアニメーション)
31	12月17日	土	11:00-12:00	東京工芸大学	大学生	授業等	20	展覧会鑑賞「写真の飛躍」展
32	12月20日	火	13:30-15:30	東洋美術学校	専門学校生	授業等	15	展覧会鑑賞「見えない世界のみつめ方」展
33	12月21日	水	13:00-13:30	日本写真芸術専門学校	専門学校生	授業等	23	展覧会鑑賞「ストリート・ライフ」展
34	1月12日	木	13:00-14:00	早稲田大学	大学生	授業等	24	展覧会鑑賞「見えない世界のみつめ方」展
35	1月13日	金	10:00-12:00	クラーク記念国際高等学校	1年-3年生	選択授業	14	体験プログラム(カメラの仕組みを学ぼう)
36	1月17日	火	10:00-12:00	江戸川区立第三松江小学校	4年	図工	86	体験プログラム(驚き盤)
37	1月21日	土	10:00-12:00	立教女学院小学校	4-6年	図工	6	体験プログラム(コマ撮りアニメーション)
38	1月24日	火	10:00-12:00	品川区立鯉浜小学校	6年	図工	16	体験プログラム(コマ撮りアニメーション)
39	1月27日	金	8:50-10:10 10:55-12:05	渋谷区立加計塚小学校	5年	図工	61	体験プログラム(フォトグラム)
40	1月27日	金	14:45-16:00	東京女子館小学校	4-6年	絵画クラブ	5	体験プログラム(コマ撮りアニメーション)
41	3月 7日	水	10:00-12:00	岐阜女子大学	大学生	博物館実習	38	概要説明
42	3月 8日	木	10:00-12:00	港区立三光小学校	6年	図工	23	体験プログラム(カメラの仕組みを学ぼう)
43	3月 9日	金	10:00-12:00	品川区立清水台小学校	6年	図工	24	体験プログラム(コマ撮りアニメーション)
44	3月 9日	金	16:00-18:00	ブリティッシュ・スクール・イン・ トウキョウ	中高生	ART	15	体験プログラム(フォトグラム)
45	3月13日	火	8:50-10:10 10:55-12:05	渋谷区立加計塚小学校	3年	図工	60	体験プログラム(驚き盤)
46	3月13日	火	13:00-15:00	大田区教育研究会図工部	教員	教員研修	11	展覧会鑑賞「フェリーチェ・ベアト」展
47	3月14日	水	13:00-15:00	トキワ松学園中学校・高等学校	中高生	写真部	18	体験プログラム(BWプリント)
48	3月15日	木	8:50-10:10 10:55-12:05	渋谷区立加計塚小学校	4年	図工	60	体験プログラム(コマ撮りアニメーション)
49	3月15日	木	16:00-18:00	ブリティッシュ・スクール・イン・ トウキョウ	中高生	ART	12	体験プログラム(BWプリント)

普及事業 ワークショップ等

東京都写真美術館は、写真と映像の二つの専門分野を総合的にあつかう美術館として、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを開館以来実施している。人々が写真、または新旧の映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することで、当館が生涯学習の場として機能することを目指している。

ワークショップ

来館者が写真映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することを目的に、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを実施した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
古典技法ワークショップ 鶏卵紙	田中里実（日本大学芸術学部助教）	2011年4月10日(日)	14人	一般 3,000円 学生 2,000円
ワークショップ 雑巾がけを学ぶ	比田井一良（銀遊堂プリンター）	2011年4月23日(土)	9人	5,000円
古典技法ワークショップ カロタイプ	田中里実（日本大学芸術学部助教）	2011年5月1日(日)	13人	一般 3,000円 学生 2,000円
BWプリントワークショップ（6月）	当館スタッフ	2011年6月18日（土） 2011年6月19日（日）	19人 21人	一般 3,000円 学生 2,000円
第4回写美フォトドキュメンタリー・ワークショップ	Q.サカマキ（写真家） 外山俊樹（『AERA』フォトエディター）	2011年7月16日（土）～18日（月・祝）	18人	20,000円
第4回写美フォトドキュメンタリー・ワークショップの公開レビュー	Q.サカマキ（写真家） 外山俊樹（『AERA』フォトエディター）	2011年7月18日（月・祝）	32人	無料 （世界報道写真展の半券提示）
夏休みワークショップ カメラオブスクラとピンホールカメラ	当館スタッフ	2011年7月23日（土） 2011年7月24日（日）	12人 24人	1,000円
オープンワークショップ 驚き盤を作ろう！	当館スタッフ	2011年8月20日（土） 2011年8月21日（日）	25人 44人	無料 無料
BWプリントワークショップ（10月）	当館スタッフ	2011年10月1日（土） 2011年10月2日（日）	16人 14人	一般 3,000円 学生 2,000円
BWプリントワークショップ（12月・1月）	当館スタッフ	2011年12月18日（日） 2012年1月22日（日）	13人 18人	一般 3,000円 学生 2,000円
オープンワークショップ 驚き盤を作ろう！	当館スタッフ	2012年1月28日（土） 2012年1月29日（日）	46人 84人	無料 無料
BWプリントワークショップ （友の会会員限定コース）	当館スタッフ	2012年3月24日（土） 2012年3月25日（日）	14人 15人	一般 3,000円 学生 2,000円

共催ワークショップ

写真関連団体、企業等と連携して様々なワークショップを実施した。

テーマ	講師等	開催日	参加人数	参加費
夏休みワークショップ 日本写真協会共催「親子と初めての方のためのモノクロ写真教室」	社団法人日本写真協会・日本プリンター協会 各会員	2011年6月25日（土） 2011年6月26日（日）	56人 68人	1,000円
朝日新聞社共催 「小中学生を対象とした報道カメラマンの一日体験」	朝日新聞社文化事業部	2011年7月22日（金）	15人	1,500円

講演会等

写真美術館で開催した展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
江成常夫写真展 昭和史のかたち	連続対談「江成常夫と語る 昭和史のかたち」	平成23年7月30日(土)	森村泰昌(美術家)、江成常夫(出品作家)	68人	
		平成23年8月20日(土)	梯久美子(ノンフィクション作家)、江成常夫(出品作家)	114人	
		平成23年8月27日(土)	澤地久枝(作家)、江成常夫(出品作家)	121人	
国際交流事業	ラウンジトーク「オーストリア写真の諸相」	平成23年8月4日(木)	クリスティーン・フリシングリー(キュレーター、「カメラ・オーストリア」創設者)、マンフレート・ヴィルマン(アーティスト、「カメラ・オーストリア」創設者)、ピーター・ドレスラー(アーティスト、ウィーン美術アカデミー准教授)	43人	
映像をめぐる冒険vol.4 見えない世界のみつめ方	特別対談	平成23年12月25日(日)	平田晃久(建築家)、市川創太(出品作家)	41人	
		平成24年1月8日(日)	飯田和敏(ゲームクリエイター)、小坂 淳(出品作家)	55人	
		平成24年1月22日(日)	田中良治(ウェブデザイナー)、鳴川 肇(出品作家)	92人	
ストリート・ライブ ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち	特別対談「写真の〈姿勢〉をめぐる」	平成24年1月7日(土)	嘉数次人(大阪市立科学館主任学芸員)、宮本朝子(音楽家)	117人	
芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム	記念講演会 「日本の芸術写真 写真史における位置をめぐる」	平成23年4月16日(土)	倉石信乃(明治大学大学院准教授/近代美術史、写真史)、平倉 圭(横浜国立大学准教授/芸術論、知覚論)	74人	
ジョセフ・クーデルカ ブラハ1968	対談	平成23年5月21日(土)	竹葉 文(名古屋美術館学芸員)、高谷典子(鳥根県立美術館学芸員)、堀 宜雄(福島県立美術館学芸員)、光田由里(渋谷区立松涛美術館学芸員)、金子隆一(当館専門調査員)	152人	
		平成23年6月12日(日)	小森香子(詩人)、小森陽一(日本文学)	231人	
		平成23年6月26日(日)	ホリー・ベトル(チェコセンター所長)	138人	
畠山直哉 ナチュラル・ストーリーズ	対談	平成23年10月2日(日)	大竹昭子(文筆家)、畠山直哉(出品作家)	186人	
		平成23年10月25日(火)	池澤夏樹(作家)、畠山直哉(出品作家)	260人	
		平成23年12月10日(土)	佐藤時啓(写真家)、佐野陽一(出品作家)	31人	
日本の新進作家vol.10 写真の飛躍	対談	平成23年12月11日(日)	山崎博(写真家)、添野和幸(出品作家)	41人	
		平成23年12月17日(土)	中島英樹(アートディレクター、グラフィックデザイナー)、春木麻衣子(出品作家)	51人	
		平成24年1月14日(土)	大竹昭子(文筆家)、北野 謙(出品作家)	54人	
フェリーチェ・ベアトの東洋	講演会「J・ボール・ゲティ美術館の19世紀写真コレクションの歴史および写真の保存について」	平成24年1月21日(土)	藤森照信(建築家)、西野社平(出品作家)	70人	
		平成24年3月6日(火)	アン・ライデン(J・ボール・ゲティ美術館学芸員)、サラ・フリーマン(J・ボール・ゲティ美術館保存科学研究員)	33人	
		平成24年2月10日(金)	ユリウス・フォン・ビスマルク(出品作家)	25人	
第4回恵比寿映像祭 「映像のフィジカル」	ラウンジトーク	平成24年2月10日(金)	カリリン・ツニッス、プラム・スナイダース Sitt(出品作家)	21人	
		平成24年2月11日(土)	ユェン・グァンミン(出品作家)	25人	
		平成24年2月12日(日)	ステファラット・スバハリヤ(出品作家)	21人	
		平成24年2月14日(火)	伊藤隆介(出品作家)	29人	
		平成24年2月14日(火)	ヨハン・ルーフ(出品作家)	11人	
		平成24年2月17日(金)	エキソニモ(出品作家)	23人	
		平成24年2月18日(土)	岡田一男(プロデューサー、ディレクター/東京シネマ新社代表取締役)、岡田秀則(東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)	26人	
		平成24年2月19日(日)	イム・ミヌク(出品作家)	39人	
		平成24年2月25日(土)	津田広志(amuディレクター)、岡本 健(グラフィックデザイナー)	25人	
		平成24年2月25日(土)	前沢知子(出品作家)	40人	
		平成24年2月26日(日)	マライケ・ファン・ヴァルメルダム(出品作家)	47人	
		平成24年2月10日(金)	ジョン・ヨンドゥ(出品作家)	26人	
		平成24年2月11日(土)	ビップ・チョードロフ(出品作家)	53人	
		平成24年2月12日(日)	濱口竜介(出品作家)、酒井耕(出品作家)	103人	
		平成24年2月14日(火)	マーク・ルイス(出品作家)	41人	
	平成24年2月15日(水)	大木裕之(出品作家)	34人		
	平成24年2月16日(木)	ジム・オルーク(出品作家)	66人		
	平成24年2月17日(金)	鈴木了二(建築家・出品作家)、七里圭(映画監督・出品作家)	95人		
	平成24年2月18日(土)	川瀬慈(出品作家)、分藤大翼(出品作家)	85人		
	平成24年2月19日(日)	イ・ミヌク(出品作家)	62人		
	平成24年2月21日(火)	大木裕之(出品作家)	32人		
	平成24年2月21日(火)	前田真二郎(出品作家)	85人		
	平成24年2月22日(水)	鈴木了二(出品作家)、七里圭(映画監督)	183人		
	平成24年2月23日(木)	濱口竜介(出品作家)、酒井耕(出品作家)	127人		
	平成24年2月23日(木)	分藤大翼(出品作家)	63人		
	平成24年2月24日(金)	ジム・オルーク(出品作家)	99人		
	シンポジウム 「映像アーカイブの現在01：フィルム、ビデオ、アートの交差点」		平成24年2月12日(日)	レベッカ・クレマン(エレクトロニック・アーツ・インターミックス[EAI]、配給部門・ディレクター)、ジェド・ラップフォーゲル(アンソロジー・フィルムアーカイブス、プログラマー)、松本圭二(福岡市総合図書館・映像管理員)	74人
	シンポジウム 「映像アーカイブの現在02：〈AA〉をめぐる音楽と映像の交差点」		平成24年2月25日(土)	青山真治(映画監督)、長寛寛幸(音楽家・東京藝術大学大学院映像研究科准教授)、松井 茂(詩人・東京藝術大学大学院映像研究科特任研究員)	71人
	レクチャー「仙台短篇映画祭の歩み」		平成24年2月19日(日)	菅原睦子(仙台短篇映画祭)、富永昌敬(映画監督)、鈴木卓爾(映画監督)	23人
	レクチャー「物質試行：映像と建築について」		平成24年2月22日(水)	鈴木了二(建築家・出品作家)、七里圭(映画監督・出品作家)、富永昌敬(映画監督)、中谷礼仁(建築史家)	83人
ライブ・イベント「シー・ディス・サウンド」		平成24年2月18日(土)	和田 永、DJピロピロa.k.a.大木裕之、シニギワ(松井 茂、長寛寛幸)、エキソニモ、Typingmonkeys(平川紀道、野口久美子)、evala、ドラビでお	294人	
合 計				4,050人	

【誘致展】

展覧会	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
第36回日本写真家協会展	講演「人を撮る、時代を撮る～昭和の肖像～」	平成23年5月21日（土）	齋藤康一（写真家）	175人
	撮影会「ぶらり、恵比寿」	平成23年5月22日（日）	榎並悦子（写真家）、清水哲朗（写真家）	20人
	レクチャー「写真をえらんで、気軽にフォトブック」	平成23年5月28日（土）	吉住志穂（写真家）	9人
	セミナー「ゆる鉄、中井精也・鉄道写真の世界」	平成23年6月5日（日）	中井精也（写真家）	64人
世界報道写真展2011	開幕記念講演 「写真家 大石芳野が語る写真への思い」	平成23年6月11日（土）	大石芳野（写真家）	103人
	講演「東日本大震災から4ヶ月。被災地を見た写真家が未曾有の震災を振り返る」	平成23年7月10日（日）	Q.サカマキ（写真家）、岡原功祐（写真家）	114人
鬼海弘雄写真展 東京ポートレイト	アーティスト・トーク	平成23年8月28日（日）	間村俊一（装丁家）、鬼海弘雄（出品作家）	84人
	トークショー	平成23年9月10日（土）	堀江敏幸（作家）、鬼海弘雄（出品作家）	101人
写真新世紀東京展2011	グランプリ選出公開審査会	平成23年11月11日（金）	大森克己（写真家）、佐内正史（写真家）、榎木野衣（美術批評家）、清水穰（写真評論家）、HIROMIX（写真家）	180人
生誕100年記念写真展 ロベール・ドアノー	トークショー	平成24年3月24日（土）	フランシーヌ・ドルディール （アトリエ・ロベール・ドアノー代表）	65人
合 計				915人

ギャラリートーク

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会	開催日	講師等	参加人数
夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編	平成23年4月8日・22日（金）、5月1日（日）・2日（月）・3日（火）・4日（水）・5日（木）	三井圭司（担当学芸員）	549人
こどもの情景 戦争とこどもたち	平成23年5月27日（金）、6月10日・24日（金）、7月8日（金）・10日（土）	鈴木佳子（担当学芸員）	189人
こどもの情景 こどもを撮る技術	平成23年8月5日・19日（金）・20日（土）、9月2日（金）・14日（水）・16日（金）	三井圭司（担当学芸員）	166人
こどもの情景 原風景を求めて	平成23年10月14日（金）・25日（火）・28日（金）、11月5日（土）・11日・25日（金）	石田哲朗（担当学芸員）	109人
江成常夫写真展 昭和史のかたち	平成23年8月12日（金）・15日（月）・26日、9月9日・23日（金）	關次和子（担当学芸員）	221人
ストリート・ライフ展 ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち	平成23年12月23日（金）、平成24年1月13日・27日（金）	鈴木佳子（担当学芸員） 金子隆一（担当専門調査員） 伊藤貴弘（担当学芸員）	203人
映像をめぐる冒険vol.4 見えない世界のみつめ方	平成23年12月16日（金）・17日（土）、平成23年1月2日（月）・3日（火）・6日・20日（金）	山峰潤也（担当学芸員）、小阪淳、市川創太、鳴川肇（出品作家）	396人
幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界	平成24年3月9日・23日（金）	金子隆一（担当専門調査員）	46人
芸術写真の精華 日本のピクトリアリズム	平成23年4月1日・15日（金）、5月6日（金）	金子隆一（担当専門調査員）	80人
ジョセフ・クーデルカ プラハ1968	平成23年5月14日（土）・27日（金）、6月10日（金）・16日（木）・24日（金）、7月8日（金）	丹羽晴美（担当学芸員）	425人
島山直哉 ナチュラル・ストーリーズ	平成23年10月2日（日）・7日・21日・28日（金）、11月1日（火）・4日・18日（金）、12月2日（金）	藤村里美（担当学芸員）	266人
日本の新進作家vol.10 写真の飛躍	平成23年12月23日（金）、平成24年1月2日（月）・3日（火）・13日・27日（金）	丹羽晴美（担当学芸員）、西野壮平、北野謙、春木麻衣子、添野和幸、佐野陽一（出品作家）	347人
フェリーチェ・ベアトの東洋	平成24年3月16日（金）	三井圭司（担当学芸員）	48人
合 計			3,045人

【誘致展】

外部企画・資金を導入した誘致展においても、出品作家などによる展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
第36回日本写真家協会展	平成23年5月27日（金）・28日（土）・29日（日）、6月3日（金）・4日（土）・5日（日）	写真家（日本写真家協会会員）	190人
鬼海弘雄写真展 東京ポートレイト	平成23年8月14日（日）、9月4日・18日（日）・23日（金）	鬼海弘雄（出品作家）	330人
写真新世紀東京展2011 作品公開レビュー、アーティスト・トーク	平成23年10月29日（土）、11月5日（土）	2010年度・2011年度 受賞者他	374人
合 計			894人

教育普及事業

あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿（文化施設連携事業）

1 趣旨

渋谷を中心としたJR3駅、渋谷、恵比寿、原宿を結ぶエリアには美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク、図書館など数多くの文化施設があり、それぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業が展開されている。

本事業の趣旨は、これらの文化施設が連携することにより、従来にも増して、渋谷・恵比寿・原宿が魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、文化芸術に触れる場や機会の提供の拡充を図ろうとするものである。これにより人々の生活の中に文化が浸透し、地域社会に活力を与えることを目的とする。

2 連携施設

①NHKスタジオパーク ②渋谷公会堂 ③たばこと塩の博物館
④トーキョーワンダーサイト渋谷 ⑤Bunkamura ⑥観世能楽堂
⑦戸栗美術館 ⑧ギャラリーTOM ⑨渋谷区立松濤美術館
⑩太田記念美術館 ⑪こどもの城 ⑫国連大学 ⑬セルリアンタワー能楽堂
⑭白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 ⑮渋谷区ふれあい植物センター
⑯エビスビール記念館 ⑰東京都写真美術館 ⑱東京都立中央図書館
⑲山種美術館 ⑳JICA地球ひろば
㉑環境パートナーシップ会議



かるちゃー散歩地図

3 活動実績

(1) 「あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿」運営協議会の開催

参加館の担当者が集まり、連携事業についての協議や情報交換を行った。(実施回数8回)

(2) 広報宣伝

「あ・ら・かるちゃー」ホームページ

参加館のホームページ上にバナーを設置、参加館の紹介をした。また、各施設のホームページにリンクを貼り相互PRを行った。

(3) 連携事業・イベント

(ア) 文化施設体験ツアーの実施

昨年度に続き、出版社・旅行代理店の方に参加を募り、各施設の紹介と活動報告をおこない、連携施設の施設見学を実施した。参加者は、9社12名だった。

開催日：平成23年9月8日（木）

会場：サッポロビール本社講堂

巡回施設：エビスビール記念館 JICA地球ひろば 東京都立中央図書館



施設めぐり会議の様子

(イ) こどもの城の秋祭りに参加

こどもの城で開催される秋祭りイベントにゲームの夜店を出し、親子で参加してもらい、案内チラシを配布した。約1,100人の参加を得た。

開催日：平成23年9月23日（金）・24日（土）

場所：こどもの城



秋祭りの夜店で遊ぶこども

(ウ) 第34回渋谷区区民フェスティバルに参加

「あ・ら・かるちゃー」のブースを出して渋谷・恵比寿・原宿地区の文化活動をアピール。各施設の案内チラシの配布をはじめ、「あ・ら・かるちゃークイズ」や福引き抽選会、施設の来場実績のアンケート調査、JICA地球ひろばによるオープンワークショップを実施した。二日間で延べ約2,300人の参加を得た。

渋谷区区民フェスティバル

開催日：平成23年11月5日（土）・6日（日）

場所：代々木公園（渋谷区）



渋谷区民フェスでのテント風景

教育普及事業

ボランティア／博物館実習

東京都写真美術館ボランティア

ボランティアスタッフの積極的な参加によってワークショップ、スクールプログラムといった来館者向けの体験プログラムの充実した活動を実施した。平成23年度は活動日数、参加者数が前年とほぼ同様となった。

1 登録者数：62名

平成22年度からの更新登録者 52名

新規登録者 10名

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 59回 1ヶ月平均 約4.9回

のべ参加者 302人

(ただしボランティア研修会をのぞく。)年間一人あたり5.1回

(1) ワークショップ・スタッフ活動 21回

(2) スクールプログラム・スタッフ活動 30回

(3) 「恵比寿映像祭」会場スタッフ 9回

●ボランティア研修会（暗室実技自主研修ほか）

平成23年4月30日（土）、5月14日（土）、7月9日（土）、
8月28日（日）、9月17日（土）、10月22日（土）、11月
5日（土）、11月19日（土）12月14日（水）、12月16日
（金）、平成24年1月15日（日）、1月28日（土）、1月29
日（日）

●新規ボランティア研修会・ボランティア交流会

平成23年5月21日（土）、6月9日（木）

●ボランティア総会 平成24年4月8日（月）

博物館実習

写真美術館における美術館活動と学芸員および各部署の業務を実地で研修することによって、学芸員養成のための実習とした。平成23年度は展覧会業務、作品管理業務、教育普及業務の3つの実習グループに分かれて、10日間の実習を行った。

1. 受け入れ日程：平成23年8月16日（火）～9月9日（金）

のうち10日間

2. 受け入れ人数：12名

3. 受け入れ大学：江戸川大学、お茶の水女子大学、関東学院大学、共立女子大学、多摩美術大学、東京工芸大学、東京造形大学、日本大学、日本女子大学、立命館大学、横浜国立大学

作品資料収集／作品収集実績

●収集の基本方針

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1 国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2 写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3 歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4 東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5 日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
6. 基本方針〔写真作品〕5に基づき作品を収集した重点作家（17人）

秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1 出版物（写真集、専門書、雑誌等）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2 ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3 ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4 その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1 写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2 体験学習などの事業活動に必要なものを収集する。

[映像資料]

- 1 映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2 体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3 日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。

- 4 各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

●写真作品収集の新指針(平成18年11月13日策定)

- 1 写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2 黎明期の写真のように、希少価値的な作品を積極的に収集する。
- 3 写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4 1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5 新進展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6 写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7 基本方針〔写真作品〕5に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8 新指針7に基づく新規重点作家（21人）
荒木経惟 石内都 オノデラユキ 北井一夫 北島敬三 小山穂太郎 佐藤時啓 篠山紀信 柴田敏雄 杉本博司 鈴木清 須田一政 高梨豊 田村彰英 畠山直哉 深瀬昌久 古屋誠一 宮本隆司 森村泰昌 やなぎみわ 山崎博

平成23年度収集点数：2213点

【内訳】国内写真作品：1,080点 海外写真作品：106点

映像作品資料：27点 写真資料：1,000点

東京都写真美術館コレクション点数：28,077点

【内訳】国内写真作品：18,440点 海外写真作品：5,446点

映像作品資料：2,299点 写真資料：1,892点

●作品収集実績

東京都購入案件

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ	点数	制作年	備考
川内 倫子	Illuminance (イルミナンス)	発色現像方式印画	1016x1016	10	2007-2011	平成24年度展覧会予定
北野 謙	our face	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	1780x1420	1	2009	平成23年度新進作家展出品作品、ed.1/1、額装済
佐々木 崑	1960「麻薬地帯」クラックハウスの実体	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	210x305	30	1960	1996年プリント
須田 一政	東京景	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	310x253	20	1975-78	平成25年展覧会予定、新規重点収集作家、vintage print
田村 彰英	BASE 名もなき風景のために	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	1038x736	35	1966-2011	平成24年度展覧会予定、新規重点収集作家
都築 響一	珍日本紀行	発色現像方式印画	980x980	18	1996	
西野 壮平	Diorama Map Tokyo、Diorama Map Hiroshima	その他の技法	1365x1366	2		ライトジェットプリント、平成23年新進展出品作品、ed.2/15 1/5
芳賀 日出男	シリーズ「花祭り」、「日本の民俗」より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	457x560	30	1950-72	
島山 直哉	光のマケット	ミクストメディア	222x148	12	1995-98	新規重点収集作家、ゼラチン・シルバー・プリント、グラフィックフィルム、UVフィルター、フォトビュアー
榮榮&映里	Liulitun Beijing 2002	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	1100x1060	6	2002	六屯里シリーズed. 8
河野 蔚蔵、穂刈 三寿雄、百瀬 藤雄 他	明治期～昭和20年代山岳写真絵はがき	オフセット印刷		744	1900-45	
おおえ まさのり	おおえまさのり+マーヴィン・フィッシュマン (Great Society)	その他のフィルム		1	1967	第三回恵比寿映像祭出品作品、16ミリフィルム+デジタルマスター版DV カラー、サウンド、17分、6面マルチ作品
大木 裕之	ウム/オム1	その他のフィルム		1	2005-2010	第四回恵比寿映像祭出品作品、カラー、サウンド、40分、DV、ed.1/8+AP
五島 一浩	時間双眼鏡	その他のフィルム		1	2010	平成22年度映像展出品作品、ed.1/8、macmini1台、インターフェース1台、機材収納用ケース
中島 興	穴ボコ、精造器、Biological Cycle Part 4、Horizon Part、Mt. Fuji	その他のフィルム		5	1964-85	第三回恵比寿映像祭出品作品、ビデオ
西川 智也	Tokyo-Ebisu	その他のフィルム		1	2010	第三回恵比寿映像祭出品作品、16ミリフィルム、カラー、サウンド、5分
松本 カ	どこかの星の上で、宇宙登山	その他のフィルム		2	2005-2006	シングルチャンネル・ビデオ・インストールーション、ed.4/8+AP2、1/8+AP2
松本 カ	オワリ山の日、山へ、タイガーの日、With or Without You他	その他のフィルム		6	2000-2011	第三回恵比寿映像祭出品作品、シングルチャンネル・ビデオ・インストールーション、ミニDVマスター
森 弘治	Re.、死のワークショップ	その他のフィルム		2	2009-2011	第三回恵比寿映像祭出品作品、HDV、サウンド、カラー、ed.1/5+AP2

東京都写真美術館購入案件

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ	点数	制作年	備考
北井 一夫	フナバシストーリー	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	300x430	10	1983~87	平成24年度展覧会予定、新規重点収集作家、ウィンテージ・プリント
武林 盛一	札幌のパノラマ	鶏卵紙	245x120	1	1879	
内田九一他	アルフレッド・ガロバン写真コレクション・アルバム3冊	鶏卵紙	210x265	102	1870~80	仏軍人ガロバン旧蔵アルバム、和式の折本、各台紙17枚に34点の写真、手書きキャプション
ANNAN Thomas	The Old Closes and Streets of Glasgow	フォトグラビア印刷	395x305	50	1868~99	1900年刊行アルバム、1879年のカーボンプリント版の複製版、平成23年度「ストリート・ライフ」展出品
ZILLE Heinrich	ポートフォリオ「小枝を集める人たち」	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	199x266	13	1897~99	1975年制作12点組ポートフォリオ、ed. 100 (制作14)、+1点、平成23年度「ストリート・ライフ」展出品
Julia Margaret Cameron 他	Julia Margaret Cameron & Alfred Tennyson Association Album	鶏卵紙	285x240x36	20	1860~69	アルバム内写真全20点、カメラ7点、レイランダー2点、他作家不詳、平成24年度「表現と技法」展出品予定

※東京都写真美術館購入案件53点については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

寄贈

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ	点数	制作年from	備考
池田 宏彦	echoes	インクジェット・プリント	1315x865	13	1998	「日本の新進作家vol.9 ニュー・スナップショット かがやきの瞬間」展出品作品、12点組+DVD作品
生沢 英二	朝市のおばさん達	ゴム印画	419x590	1	1980	個人所蔵家より
小畑 雄嗣	二月	インクジェット・プリント	315x470	33	2003-2007	「日本の新進作家vol.9 ニュー・スナップショット かがやきの瞬間」展出品作品
金坂 健二	「U.S.A.'68」他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	162x236	91	1968-1984	作家ご遺族より
北井 一夫	「フナバシストーリー」より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	300x430	48	1980-1989	
北野 謙	our face	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	1780x1420	1	2009	
桑原 甲子雄	「東京昭和十一年」他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	454x557	219	1934-1999	作家ご遺族より、「桑原甲子雄物語」展（札幌市写真ライブラリー、1997.5.29-6.23）出品作品他
小石 清	クラブ石戯	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	221x284	1	1931	福森白洋日蔵、第2回国際広告写真展特選記念で関係者に配布したものと思われる
佐々木 崑	1960「麻薬地帯」クラックハウスの実体	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	210x305	29	1960	
白井 里実	ホーム・アンド・ホーム	発色現像方式印画	711x870	1	2006	「日本の新進作家vol.9 ニュー・スナップショット かがやきの瞬間」展出品作品
須田 一政	東京景	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	310x253	13	1975-1978	
鷹野 隆大	カスババ	発色現像方式印画	667x985	6	2004-2010	「スナップショットの魅力」展出品作品
田所 美恵子	Another Point of View Paris Eiffel 5, Fleurs/fruits/Legumes	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	198x156	2		館長より、額装済み
土田 ヒロミ	俗神	インクジェット・プリント	275x415	5	1970-1973	「スナップショットの魅力」展出品作品
中村 ハルコ	光の音	インクジェット・プリント	841x1189	30	1993-1998	「日本の新進作家vol.9 ニュー・スナップショット かがやきの瞬間」展出品作品、作家ご夫君から
西野 壮平	Diorama Map	インクジェット・プリント	406x508	11	2004-2011	
深瀬 昌久	「bukubuku」から	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	400x500	4	1991	エステートより
福森 白洋	「曇り日」他	ブロムオイル印画	115x157	193	1920-1929	ご遺族より、作品86点、アルバム5冊
水谷 章人	「勝利に向かって」他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	360x220	38	1968-1992	作家ご本人より
宮内 良男 (石井良男)	題不詳	ブロムオイル・トランスファ印画	283x243	7	1920-1931	ご遺族より
森村 泰昌	なにものかへのレクイエム	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	1200x1500	4	2006-2010	「なにものかへのレクイエム」展出品作品
山城 知佳子	聴こえる唄/ Choros of the Melodies	発色現像方式印画	600x900	23	2010	「日本の新進作家vol.9 ニュー・スナップショット かがやきの瞬間」展出品作品
結城 臣雄	都市の襲-Tokyo Is	インクジェット・プリント	344x258	36	2002-2010	「日本の新進作家vol.9 ニュー・スナップショット かがやきの瞬間」展出品作品
ARMENGOL Manel	題不詳	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	515x420	1	2001	館長より、スペインのフォトジャーナリスト
CARTIER-BRESSON Henri	「画家・彫刻家 アルベルト・ジャコメッティ、パリ」他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	445x298	4	1951-1974	館長より、額装済
HARNELL Boyd Brown	John F. Kennedy press conference San Diego CA USA 1960	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	454x557	1	1960	作家ご本人より、printed in 2011
KERTESZ Andre	ブローアの交差点	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	193x245	1	1930	館長より、printed in 1937 edition 50 額装済
YOUNG Tom	「Recycled Realiteis」より	インクジェット・プリント	400x500	4	2007-2009	作家ご本人より
DIEURAROIRE J.	バラの秘密、船と海	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	380x285	2	1954-1982	館長より、額装済
DUBQUEIL S.	題不詳	フォトグラビア印刷	230x187	1		館長より、額装済
榮榮&映里	Liulitun Beijing 2002	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	1100x1060	3	2002-2003	六屯里シリーズ、ed.8 ed.8 ed.12
桑原 甲子雄	無題	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	454x557	81	1934-1992	ご遺族より、作品と併せて一括寄贈、56点写真、アルバム1冊（24点写真、1点資料）
宮内 良男 (石井良男)	初期写真アルバム	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	185x278	40	1920-1929	ご遺族より アルバム2冊（写真28点、12点）
安本 江陽	欧米視察旅行アルバム、スクラップブック全3巻	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	340x285	4	1923-1943	ご遺族より、アルバム1冊、スクラップブック3冊
内田 九一他	明治期川本家関係資料	鶏卵紙	105x65	131	1872-1887	川本幸民のご子孫より
大木 裕之	松前君の赤い (パブリックバンツ) 映画 (恵比寿ヴァージョン)	その他のフィルム		1	2010-2011	作家ご本人より、ビデオ (カラー、サウンド、21分)
金坂 健二	アメリカ・アメリカ・アメリカ	その他のフィルム		1	1966	作家ご遺族より、16ミリフィルム (カラー、サウンド、20分)
GOLDBERG Michael	アニメーター	その他のフィルム		1	1980-1985	ビデオ (サウンド、カラー、20分)
五島 一浩	Stereo Shadow、東京浮絵百景	その他のフィルム		2	2008、2010	「映像をめぐる冒険vol.3 3Dヴィジョンズ」展出品作品他
中島 興	中島興記録映像作品 (ビル・ヴィオラ)	その他のフィルム		1	1982	ビデオ(サウンド、カラー、10分)
西川 智也	Shibuya-Tokyo	その他のフィルム		1	2010	16ミリフィルム、カラー、サウンド、10分
松本 カ	松本カ初期映像集	その他のフィルム		1	1996-2011	ミニDVマスター

●プリントスタディールーム

東京都写真美術館では、写真作品・資料の収集、展覧会等での展示・鑑賞をおこなっており、研究・鑑賞のために直接作品等を閲覧する特別閲覧（プリントスタディールーム）制度を設けている。（実績は66ページ）

平成23年度収蔵作品の紹介

東京都購入案件



川内倫子 無題 Illuminance (イルミネランス) より
2007年 発色現像方式印画



北野謙 our face 「アニメのコスプレの少女たち
34人を重ねた肖像、台北のコミケ、ストリート上
で、2009年4月18日撮影」 2010年
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



佐々木崑 1960 「麻薬地帯」クラックハウスの実体
1960年 ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



須田一政 東京景 無題 1975-78年
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



田村彰英 BASE 「ATSUGI」 1969年
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



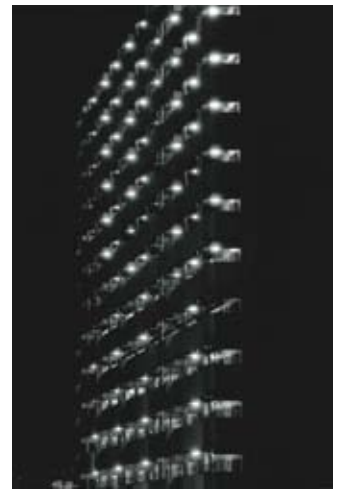
都築響一 珍日本紀行「ハニベ岩窟院、石
川県」 1996年 発色現像方式印画



西野壮平 Diorama Map 「Diorama Map Tokyo」
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



芳賀日出男 花祭「神鬼の舞」 1972年
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



島山直哉 光のマケット「#2911」
1995-98年 ミクストメディア



榮榮&映里 Liulitun, Beijing 2002 2002年
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



撮影者不詳 山岳写真絵はがき「上高地・河童橋(初代吊り橋)」
1928年頃 ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



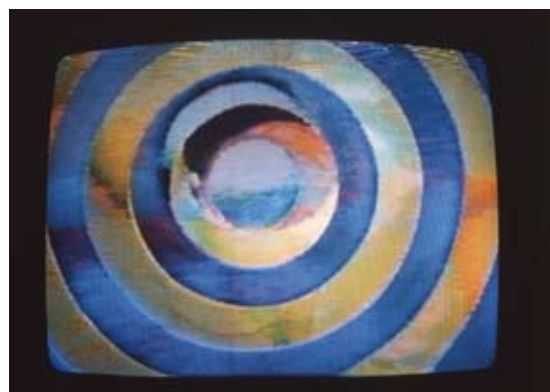
おおえまさのり おおえまさのり+マーヴィン・フィッシュマン
(Great Society) 「Great Society」 1967年
16ミリフィルム+デジタルリマスター版ビデオ



大木裕之 ウム/オム1 2005-2010年
シングルチャンネル・ビデオ



五島一浩 時間双眼鏡 2010年
インタラクティブインスタレーション



中島興 穴ポコ、精造機、Biological Cycle Part 4、Horizon Part、Mt. Fuji 1964-85年 シングルチャンネル・ビデオ



松本力 With or Without You 2008年



西川智也 Tokyo-Ebisu 2010年
16ミリフィルム



森弘治 Re : 2009年



北井一夫 「フナバシストーリー」 1983-87年
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



武林盛一 「札幌のパノラマ」 1879年
鶏卵紙



内田九一他 「アルフレッド・ガロパン写真コレクション・アルバム」 1870-80 鶏卵紙



ANNAN, Thomas 「The Old Closes and Streets of Glasgow」
1868-99年 フォトグラビア印刷



ZILLE, Heinrich ポートフォリオ「小枝を集める人たち」1897-99年
ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



Julia Margaret Cameron 他「Julia Margaret Cameron & Alfred Tennyson
Association Album」1860-69年 鶏卵紙

調査研究・普及活動(個人)

美術館のすべての事業の基礎は調査研究にある。各学芸員はそれぞれの専門分野における調査研究を、将来の美術館事業に反映すべく日々努力している。

なお、三井圭司の日本の写真黎明期についてのこれまでの研究に対して、公益財団法人花王芸術・科学財団の平成23年度第6回美術に関する研究奨励賞が贈られた。

【陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト】

東日本大震災において、被災した全学芸員が落命、建物の損壊、資料の流失など甚大な被害を受けた陸前高田市立博物館の現場に残された収蔵写真資料および研究写真資料について、東京都写真美術館の学芸員に修復保存の相談が寄せられた。ここから「陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト実行委員会」を結成、同市からこれら資料を預かり、ドライクリーニングを中心とした清掃作業、スキャニングと複写によるデジタル化（付帯する文字情報についても翻刻）を経て、クラウドイングを行っている。現在、約8万点の写真資料に関してこれらの作業を進めている。当館の三井学芸員はこのプロジェクトに当初から参加し、実作業の他に事務局メンバーとして活動している。

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

「原風景を求めて」『こどもの情景』展図録、講談社、2011年、p.106

岡村恵子

「映像のフィジカル」『第4回恵比寿映像祭 映像のフィジカル』展図録、東京都写真美術館、2012年、pp.8-9

金子隆一

「世界認識の方法—ドキュメンタリー・スタイルとしての写真」『ストリート・ライフ ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち』展図録、美術出版社、2011年、pp.6-12

「評伝・堀野正雄」『幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界』国書刊行会、2011年、pp.254-262

鈴木佳子

「戦争と子どもたち」『こどもの情景』展図録、講談社、2011年、p.10

「見えるもの以上に「ソーシャル・ドキュメンタリー」の力」『ストリート・ライフ ヨーロッパを見つめた7人の写真家たち』展図録、美術出版社、2011年、pp.13-22

関次和子

「江成常夫・作家生活を語る」『江成常夫写真展昭和史のかたち』展図録、東京都写真美術館、2011年pp.154-161

丹羽晴美

「ジョセフ・クーデルカ “プラハ1968”」『ジョセフ・クーデルカ プラハ侵攻1968』展図録、平凡社、2011年、付録冊子pp.2-4

「写真の飛躍 — 視覚の古層から」『日本の新進作家vol.10 写真の飛躍』展図録、東京都写真美術館、2011年、pp.9-15

藤村里美

「『あの日』の後」『畠山直哉展 Natural Stories』展図録、産経新聞、2011年、pp.126-130

三井圭司

「こどもを撮る技術」『こどもの情景』展図録、講談社、2011年、p.62

山峰潤也

「見えない世界のみつめ方」『映像をめぐる冒険vol.4 見えない世界のみつめ方』展図録、東京都写真美術館、2011年、pp.76-85

【東京都写真美術館紀要No.11】

「日本の芸術写真—写真史における位置をめぐって」特別講演録、pp.15-33

藤村里美、高瀬八一

「東京都写真美術館寄贈の佐久間兵衛写真資料および関係資料について」、pp.35-43

遠藤みゆき、金子隆一、田坂博子

「東京都写真美術館寄贈の金坂健二写真作品・写真資料、映像作品および関係資料について」、pp.45-79

金子隆一

「リアリズムとプロパガンダ社会へ向けられた写真家のまなざし」、pp.81-91

山口孝子

「収蔵作品の修復および保護処理報告(2)」、pp.93-126

【寄稿】

岡村恵子

「吉増剛造『gozo ciné』の貧しさと、したたかさ」『フィルム・メーカーズ——個人映画づくり方』（編著：金子遊）アーツアンドクラフツ、2011年、pp.309-310

「フィクションとリアリティが交差するパフォーマンス パヴェウ・アルトハメル来日」『BT美術手帖』2011年1月号、p.267

笠原美智子

「追悼・多木浩二」『アサヒカメラ』2011年6月号、第96巻第6号通巻1015号、p.201

金子隆一

「コロナイブ印刷と法隆寺金堂壁画」『図書』2011年7月号、岩波書店

「評伝・木村伊兵衛」『別冊太陽 木村伊兵衛』2011年10月21日、平凡社

「中山岩太——近代写真の殉教者」『紫明』第29号、2011年10月、紫明の会

北澤ひろみ

「第54回ヴェネチア・ビエンナーレ 刻々と推移する国際展の意義と形態」『月刊美術』、2011年8月号、第37巻第8号通巻431号、p.143-147

「ワールドニュース パーゼル+チューリッヒ、香港」『美術手帖』、2011年8月号、第63巻通巻955号、pp.116-117、p.119

「アジアへアートの週末旅行 ソウル アートスポット、韓国の今をリードするアーティスト イ・ブル、スー・ドーホー、キム・スージャ、ヤン・ヘギユ、チョン・ヨンドゥ、イム・ミンク、ヤンガチ」『美術手帖』、2011年11月号、第63巻通巻960号、pp.68-72、pp.76-77

“Korean Contemporary Art beyond Korea” Art in Culture vol.13 no. 1 January 2012 p78-79

田坂博子

「映像はだれのものなのか」『時間論』No.1、2011年、pp.28-29

“Nature, body and moving images: The making of the in-visible skirt and other imaginary things,” Swing That Thing: moving to move; The poetics of embodied engagement (PhD Exhibition catalogue) 2011

丹羽晴美

「伝説の写真家が問うチェコ事件」『新聞研究』72号、日本新聞協会、2011年9月、pp. 65-68

「“写真の飛躍” 原点に」『東京新聞』東京新聞、2011年12

月5日

連載「写真の飛躍」『東京新聞』東京新聞、2012年1月16日、17日、18日

「杉本博司『はじまりの記憶』映画評」『美術手帖』、2012年3月号、第64巻964号、p.226

藤村里美

「大竹昭子『彼らが写真を手にした切実さを—《日本写真》の50年』書評」時事通信配信

「島山直哉展 Natural Stories」SANKEI EXPRESS、全6回、2011年9月26日から10月1日

山口孝子

「2010年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第74巻3号、(社)日本写真学会、2011年、pp.138-140

山峰潤也

「映像をめぐる冒険vol.4 見えない世界のみつめ方」SANKEI EXPRESS、2011年1月10日から15日

【学会発表】

山口孝子

山口孝子、千葉紘子、柴史之、大川祐輔、「古写真に用いられた彩色材料の解析法」、第33回文化財保存修復学会、(社)文化財保存修復学会、奈良県新公会堂、2011年6月5日。

YAMAGUCHI Takako, KAWAMATA Toshiaki, SHIBA Fumiyuki, OKAWA Yusuke, International Conference on Imaging and Printing Technologies 2011、Influence of fumigation processes on photographic images and their stability in long-term preservation, Asia Hotel Bangkok, 2011年8月19日。

【講演会・シンポジウム等】

岡村恵子

「実験映画サミット vol.1 第1部 実験アニメーションの逆襲」新宿ネイキッドロフト、2011年10月30日

「キュレーターの眼・公開講評会」女子美術大学大学美術館、2012年3月11日

笠原美智子

“Fotografia japonesa contemporània: una perspectiva de gènere”, Casa Asia, Barcelona, May 31, 2011

“Fotografia japonesa contemporània: una perspectiva de gènere”, Japan Foundation, Madrid, June 2, 2011

Portfolio Review, PHOTOESPAÑA 2011, Madrid, June 1-4, 2011

トーク「アーヴィング・ペンの美学」21_21 DESIGN SIGHT、2012年1月28日

「写真に見るジェンダー」足立区男女参画プラザ、2012年3月10日

金子隆一

対談「日本人と富士の病」(小原真史、倉石信乃と対談)、IZU

PHOTO MUSEUM、2011年6月19日

「植田正治の世界」72 Gallery、2011年7月2日
「ギャラリー・トーク モホイ＝ナジ／イン・モーション」神奈川県立近代美術館葉山、2011年7月3日

「中山岩太：モダニズムの光と影」MEM Gallery、2011年10月8日

鈴木佳子

公開講座現代アメリカ論「アメリカン・イメージ」第4回「アメリカ写真の新たな動き」群馬県立女子大学、2011年10月26日

田坂博子

トークイベント「タムラ！ホワッチャドゥーイン？／田村は何をしたいのか？」トーキョーワンダーサイト渋谷、2011年6月18日

丹羽晴美

reviewer, "International Portfolio Review in Stockholm Photography Week", The Swedish Museum of photography (Fotografiska), Stockholm, May 28-29, 2011

対談「行きつ戻りつ、つくりつられること」(佐野陽一と対談)、NADiff a/p/a/r/t、2012年1月15日

藤村里美

公開講座現代アメリカ論「アメリカン・イメージ」第6回「アルフレッド・スティーグリッツの仕事」(群馬県立女子大学、2011年11月15日)

山口孝子

連携研究シンポジウム「映像資料の保存と継承を考える」国立歴史民俗博物館、2012年2月27日

【非常勤講師等】

岡村恵子

東京造形大学学芸員課程「博物館学芸員実習事前指導」2011年5月17日

笠原美智子

明治学院大学大学院文学研究科芸術学専攻「美術史特別講義Ⅲ」2011年前期・後期

東京芸術大学「写真映像論」2011年5月10日、24日、6月11日

金子隆一

東京総合写真専門学校非常勤講師
武蔵野美術大学芸術文化学科非常勤講師
武蔵野美術大学映像科大学院非常勤講師
筑波大学大学院人間総合科学研究科非常勤講師

丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流・美術」2011年度前期

法政大学国際文化学部「写真論」2011年度後期

藤村里美

玉川大学芸術学部ビジュアルアーツ学科「写真史」2011年

前期

武蔵大学人文学部ヨーロッパ文化学科「イメージ文化論」2011年後期

三井圭司

明治学院大学「写真史写真理論研究」2011年前期・後期

山口孝子

東海大学課程資格教育センター「博物館学実習Ⅰ写真技術」、春・秋学期集中講義

東京文化財研究所、保存担当学芸員研修、「劣化と保存 各論－写真－」、2011年7月15日

京都工芸繊維大学、「科学と芸術の出会いⅡ」、2011年12月3日

山峰潤也

東洋美術学校「博物館経営論」2011年前期・後期

【委員・審査員等】

岡村恵子

「文化庁委託平成23年度 メディア芸術デジタルアーカイブ事業／メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業 メディアアート分野会議」委員、愛知芸術文化センター「平成23年度オリジナル映像作品制作作家選定委員会」委員

笠原美智子

東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)、東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員(写真部門)、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林忠彦賞選考委員、東川賞審査員(東川町)、財団法人アサヒビール芸術文化財団助成選考委員、財団法人五島記念文化財団五島記念文化賞美術新人賞候補者推薦委員、nominator for the Prix Pictet Award、公益信託タカシマヤ文化基金「タカシマヤ美術賞」候補者推薦委員、jury committee of the 1st Pride Photo Award, Amsterdam, jury committee of the Ilwoo Photography Prize 2011, Seoul

金子隆一

学校法人写真学園理事長、日本写真芸術学会理事、文化審議会専門委員、松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員、東京国立近代美術館収集委員会委員、高浜市やきもの里かわら美術館運営審議会委員、横浜市美術資料収集審査委員、芸術選奨推薦委員、日本写真保存センター諮問調査委員

関次和子

東京文化会館50周年記念展「木之下写真展 20世紀のマスター100人」(会期：2011年11月2日～11月22日)企画運営

丹羽晴美

福島市写真美術館企画専門委員、社団法人日本広告写真家協会公募展審査委員

山口孝子

日本写真学会監事、日本写真学会編集委員、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問調査委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員、国立国会図書館資料保存懇話会委員、国立民族学博物館人間文化研究機構連携研究員



インターン及び研究者

写真美術館では平成20年よりインターン制度を導入している。1年間、指導学芸員と共に美術館のスタッフとして展覧会や普及事業、広報事業等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材を育成することに寄与することを目的としている。第4期となった平成23年度の、インターン生及び担当業務は以下のとおりである。また、国際交流基金の依頼によりオーストラリアの美術館学芸員を研究者として受け入れた。

インターン

高瀬ハ一

担当業務：展覧会補助

「江成常夫」展補助

作品管理

指導学芸員：関次和子

指導：山口孝子（保存科学専門員）

遠藤みゆき

担当業務：展覧会補助

「クーデルカ」展「恵比寿映像祭」補助

指導学芸員：丹羽晴美

于海麗

担当業務：展覧会補助

「富山直哉」展補助

指導学芸員：藤村里美

* 期間：平成23年5月～7月

Aleksandra Fedorowicz-Jackowska

担当業務：展覧会補助

「フェリーチェ・ベアトの東洋」展補助

指導学芸員：三井圭司

* 期間：平成23年9月～平成24年3月

研究者

Maggie Finch（ヴィクトリア国立美術館）

研究目的：日本の現代写真分野における調査研究

日本とオーストラリアの現代写真分野における交流とオーストラリアでの展覧会開催の可能性の調査

担当学芸員：藤村里美

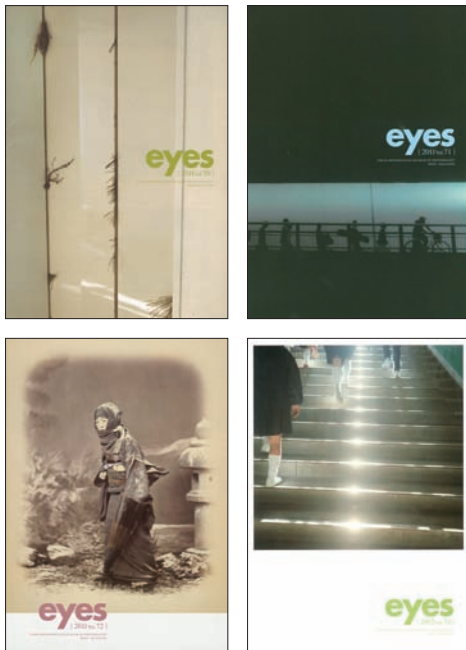
* 期間：平成23年9月～10月

広報事業

主な広報活動は下記のとおり

平成23年度は、緊急時の対応や美術館の在り方について、常期的な判断を求められる一年であった。展覧会広報以外でも、お客様や地域、記者などとのつながりを大切に、美術館を楽しんでいただくアイデアを提案することで、広報マインドを実践した。

- 1 広報誌「写真美術館ニュースeyes (アイズ)」発行 (vol.70～vol.73) 季刊、発行部数：各号30,000部
＜巻頭記事＞
70号「高山直哉展 ナチュラル・ストーリーズ」
71号「日本の新進作家展vol.10 写真の飛躍」
72号「フェリーチェ・ベアトの東洋」
73号「川内倫子展 照度 あめつち 影を見る」



ニュース70～73号表紙

2 ホームページの活用

平均アクセス数は約46万ページビュー（以下PV）で昨年とほぼ同様のアクセス数を推移し、24年1月には526,689PVと高いPVを達成した。年間を通して増減の幅が少ないコンスタントなアクセス数があった。24年度に向けてスマートフォン対応とイベント告知強化のためにマイナーメンテナンスを行っている。震災時の休館や開館時間変更の告知にも、臨機応変に対応した。「ニアイズ」ページは新たなコンテンツとして定着した。また展覧会と館に関連した検索キーワード広告

を出稿しアクセス増を促した。

東京都写真美術館公式ホームページ www.syabi.com

3 プレスリリース作成・発送およびプレス取材対応

リリース件数は各回約680件。また、電話・FAX・メールでの記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録・オンエアの立ち会いなどを行った。

4 チラシ・ポスターの配架

マスコミ、美術館、写真、教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付。展覧会毎にターゲットを絞った配布先を増やし、配架を強化した（各回約300件）。

5 懸垂幕、壁面スペースへの掲出

JR恵比寿駅側の懸垂幕、壁面スペースへの掲出や、恵比寿ガーデンタワー側の巨大写真掲出および縦位置壁面スペース（3枚）の利用で、写真美術館の活動やイメージを発信した。



館ディスプレイシート掲出例



懸垂幕掲出例

6 広告スペースへの掲出

(1) 交通広告

年間を通じて首都圏JR・地下鉄の窓上広告、JR恵比寿駅東口改札内柱広告、恵比寿スカイウォーク入口電飾広告、恵比寿スカイウォーク内電飾広告を行った。震災対応として、秋までは電飾広告を消灯して掲出した。



恵比寿スカイウォーク内電飾広告 消灯時の掲出例
(掲載期間：2011/7/11-2011/9/19)

(2) 新聞広告

展覧会やイベントを広く告知するために、新聞広告を掲載した。

出稿は下記の通り。

- (ア)「芸術写真の精華」開館時間の変更告知
朝日新聞 平成23年4月28日(木)
東京本社版夕刊(約210万部)
美術館特集企画広告 半5段
- (イ)「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」
朝日新聞 平成23年4月29日(金)
東京本社版朝刊(約380万部)全10段
- (ウ)「ジョセフ・クーデルカ プラハ1968」
朝日新聞 平成23年5月13日(金)
東京本社版朝刊(約380万部)国際面全15段カラー
- (エ)「ジョセフ・クーデルカ プラハ1968」
朝日新聞 平成23年5月18日、25日、6月1日、8日
東京本社版夕刊(約210万部)突き出し4週連続掲載
- (オ)「こどもの情景 こどもを撮る技術」コンクール告知
サンケイリビング 平成23年6月4日(土)(約17万部)全3段
- (カ)「こどもの情景 こどもを撮る技術」コンクール告知
朝日小学生新聞 平成23年7月13日(水)(約10万5千部)全3段
- (キ)「こどもの情景 こどもを撮る技術」
朝日新聞 平成23年9月2日(金)
東京本社版夕刊(約210万部)アート欄下 半5段
- (ク)「こどもの情景 原風景を求めて」
朝日新聞 平成23年9月28日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)アート欄下 半5段
- (ケ)「島山直哉展 ナチュラル・ストーリーズ」
朝日新聞 平成23年9月28日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)アート欄下 半5段
- (コ)「島山直哉展 ナチュラル・ストーリーズ」
産経新聞 平成23年10月7日(金)

- 東京本社版朝刊(約80万部) 半5段
- (サ)「ストリート・ライフ」
朝日新聞 平成23年12月7日(水)
東京本社版夕刊(約210万部)アート欄下 半5段
- (シ)「映像をめぐる冒険vol.4 見えない世界のみつめ方」
朝日新聞 平成23年12月14日(水)
東京本社版夕刊
(約210万部)アート欄下 半5段
- (ス)「日本の新進作家展vol.10 写真の飛躍」
東京新聞 平成23年12月8日(木)
東京本社版朝刊(約55万部)アート欄下 半5段
東京新聞 平成23年12月15日、22日、平成24年1月5日
東京本社版朝刊(約55万部)社会面突き出し3週連続掲載
- (セ)「お正月特別開館」
朝日新聞 平成23年12月31日(土)
東京本社版朝刊(約380万部)5段1/4(記事下)
読売新聞 平成23年12月31日(土)
東京本社版朝刊(約540万部)5段1/4(記事下)
- (ソ)「ストリート・ライフ」
朝日新聞 平成23年12月22日(木)
東京本社版夕刊
(約210万部)月刊エンタ!下 半5段
- (タ)「ストリート・ライフ」
朝日新聞 平成24年1月19日(木)
東京本社版夕刊(約210万部)芸術特集 7段1/5
- (チ)「第4回恵比寿映像祭」
朝日新聞 平成24年2月9日(木)
東京本社版朝刊(約380万部)全15段カラー
日経新聞 平成24年2月9日(木)
東京本社版朝刊(約180万部)5段カラー
- (ツ)「フェリーチェ・ベアトの東洋」
東京新聞 平成24年3月6日(火)
東京本社版朝刊(約55万部)全15段カラー
朝日新聞 平成24年3月6日(火)
東京本社版朝刊(約380万部)全15段カラー
読売新聞 平成24年3月6日(火)
夕刊(約220万部)5段カラー
朝日新聞 平成24年3月14日
夕刊(210万部)半5段モノクロ
- (テ)「写真家堀野正雄の世界」
朝日新聞 平成24年3月14日
夕刊(210万部)半5段モノクロ



「ジョセフ・クーデルカ ブラハ1968」掲載広告



「こどもの情景 子どもの撮る技術」掲載広告



「日本の新進作家展vol.10 写真の飛躍」掲載広告

(3) ポストカード型・しおり型広告

- (ア) 「ジョセフ・クーデルカ ブラハ1968」
平成23年5月14日(土)～
アドカード掲出(30,000枚、300店舗)
クーデルカ新聞配布(15,000枚、約100店舗)
ポスター作品の展示(50店舗)
- (イ) 「こどもの情景 子どもの撮る技術」
平成23年7月14日(木)～

- アドカード(30,000枚、300店舗以上)
- (ウ) 「畠山直哉展 ナチュラル・ストーリーズ」
平成23年9月10日(土)～
アドカード(30,000枚 デザイン2種)
ポスターと図録展示による告知(11店舗)



「ジョセフ・クーデルカ ブラハ1968」掲出例

7 記者懇談会・記者会見の実施

(1) 記者懇談会①

平成23年6月14日(火) 16:00～18:00

出席者数：19社21名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成22年度事業実績報告

平成23年度事業計画の紹介

平成23年度企画展の紹介

【第2部】1階 カフェ シャンブルクレール
懇談

(2) 記者懇談会②

平成24年1月19日(木) 16:00～19:00

出席者数：19社25名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成22年度事業外部評価の報告

平成23年度事業実績(12月末現在)ほか

平成24年度企画の紹介

平成23年度新規収蔵作品の紹介

【第2部】2階作業室・3階作業室

平成23年度新規収蔵作品の実見

懇談(1階 カフェ シャンブルクレール)



記者懇談会②作品の実見風景



「写真のこどもに手紙を書こう。」表彰式

8 プレス向けギャラリーツアーの実施

すべての収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日（特別鑑賞会がない場合は展覧会初日前日）に、プレス向けギャラリーツアーを開催。学芸員と作家自身による展覧会説明を積極的に行った。（全12回）



「江成常夫展」プレסטツアー



「畠山直哉展 ナチュラル・ストーリーズ」プレストツアー

9 「写真のこどもに手紙を書こう。」コンクールの開催

「こどもの情景」展の出品作品に登場するこどもに宛てて、手紙を書く作文コンクールを開催した。鑑賞教育の一環として、作品に深くふれる機会を提供した。

（協力：NPO法人日仏子供ヴィジョン）

対象：小学生（低学年、高学年）

作品応募数：106件

審査員：山本容子（銅版画家）、土田ヒロミ（写真家）、高橋源一郎（作家）

表彰式：11月12日（土）14:00（参加者数58名）

10 「おしゃべり鑑賞タイム」の実施

「こどもの情景」展開催中に、こどもたちが自由に鑑賞できる「おしゃべり鑑賞タイム」を実施した。

実施日：5月14日（土）～7月10日（日）の第1・第3日曜日

15:00～18:00

7月16日（土）～9月19日（月・祝）の毎週金曜日

15:00～18:00

11月12日（土）15:00～18:00

11 年末来館促進イベントの実施

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として「nya-eyes」（ニアイズ）を創刊。講談社モーニングに連載の漫画「クレムリン」（作者：カレー沢薫）とコラボレーションし若年層をターゲットに、館外を中心に配布した。イベントタイトル：関羽がやってくる ニャア！ニャア！ニャア！

開催期間：11月22日（火）～12月24日（土）

（ア）写真美術館友の会入会キャンペーン 入会者数：123名

（イ）カレーラウンジ開設（2階ラウンジ）

（ウ）館内ウォークラリー 参加者数：427名（要展覧会チケット）

（エ）カレー沢薫「サイン会」開催（要整理券、事前配布）
日時：12月24日（土）13:30-17:00

参加者数：92名

（オ）クリスマスライブ「ニアイト@ザ・ミュージアム in 写美」
歌手の小田晃生氏とカレー沢薫氏を招いた音楽ライブ

日時：12月24日（土）18:15-19:30（要展覧会チケット）

参加者数：130名

（カ）関連商品の企画・販売

a. 関羽の金太郎飴（ナディップ バイテン）販売数 300

b. 関羽スペシャルクッキー（サンプル クレール）販売数 55



カレーラウンジ



クリスマスライブ

12 年始特別開館

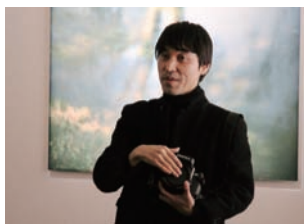
平成24年の正月特別開館では、1月2日は入場無料、3日は割引料金を設定した。期間中(1月2日～3日)は、特別フロアレクチャーや雅楽コンサート、プレゼントなどを用意し、来館者が一日をとおして美術館で楽しく過ごせるように工夫した。



お正月開館告知 (JR恵比寿駅)



お正月開館風景 2012/1/2
(しゃび雅楽)



お正月開館風景 2012/1/2
(写真の飛躍展レクチャー)



お正月開館風景 2012/1/3
(見えない世界のみつめ方展レクチャー)

13 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」vol.4～vol.15発行
月刊、発行部数：各号30,000部
展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」

の別冊として「nya-eyes」(ニアイズ)を創刊。講談社モーニングに連載の「クレムリン」(作者：カレー沢薫)の漫画とコラボレーションし若年層を中心に、館外を中心に配布した。前出(11)の関連イベントを開催し、新しい来館者層を開拓した。



ニアイズ表紙

14 恵比寿地域における連携キャンペーンの実施

恵比寿地域の活性化と集客を目的に、各施設が連携してキャンペーンやイベントを実施するために、1～2ヶ月に1回のミーティングを開催している。今年度は大震災の影響で春に予定していた「Welcome!恵比寿」キャンペーンが規模を縮小して行われた。

イベント名：「Welcome!恵比寿」

実施期間：平成23年3月下旬～4月17日(日)

内容：新しく恵比寿を訪れる人に対して恵比寿の街の回遊を提案

参加施設：恵比寿ガーデンプレイス、アトレ恵比寿、エビスビール記念館、東京都写真美術館、山種美術館、恵比寿三越(2012年3月現在)。

今後も「Welcome!恵比寿」キャンペーンは恒例イベントとして開催し、将来的に規模を大きくしていきたいとの意見で一致している。商業施設は街全体の話題づくりを求めている。写真美術館はその話題を提供できる施設として、さまざまなターゲットに魅力的な話題を提案できるように工夫していきたい。